

1995年度

ドイツ語学科シラバス

獨協大学

目次の見方

- ① この冊子では、目次が1994年度以降入学者用（新カリキュラム）と、1993年度以前入学者用（旧カリキュラム）とに分かれています。
- ② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。

各科目的科目名について

- ① 掲載されている本文の科目名のところには、
 - (1) 1994年度以降入学者対象の科目には1994年度以降入学者用の科目名がそのまま掲載されています。（目次に掲載されている科目名のまま）
 - (2) 1993年度以前入学者対象の科目には1993年度以前入学者用の科目名の末尾に（旧）のマークがついています。（目次に掲載されている科目名の末尾に（旧）マークがついている）
 - (3) 1994年度以降入学者、および1993年度以前入学者の両方を対象としている科目では、(1)、(2)の科目名が両方記載されています。自分の入学年度を対象としていない科目名での、履修はできません。

目 次

1994年度以降入学者対象（新カリキュラム）

— 学科専門科目 —

「I 言語・文学」部門

ドイツ語学概論	川島淳夫	1
ドイツ文学概論	亀谷敬昭	3
ドイツ語学各論 1	渡辺学	5
" 2	H. Jarosch	7
ドイツ文学各論	関徹雄	9

「II 思想・芸術」部門

ドイツ文化史概論	渡部重美	11
ドイツの思想	鈴木康治	13
ドイツの音楽	近衛秀健	15
ドイツの美術	片岡啓治	17
ドイツの演劇	越部遙	19
ドイツ思想・芸術各論 1	船戸満之	21
" 2	G. Wienold	23

「III 歴史・社会」部門

ドイツ史概論	黒田多美子	25
ドイツの歴史	古田善文	27
ドイツの社会・事情	H. H. Gähke	29
ドイツの地誌・民俗 1	川野諫	31
" 2	杉山好	33
ドイツの政治・対外関係	深谷満雄	35
ドイツの経済	大島通義	37
ドイツの法律	中山幸二	39

目 次

1993年度以前入学者対象（旧カリキュラム）

「ドイツ語」部門

ドイツ語講読Ⅰ—1	大串 紀代子	4 1
" 2	川野 謙	4 2
" 3	(前期) 木内 基実	4 3
	(後期) 山中 康子	
" 4	閔 徹雄	4 4
" 5	船戸 满之	4 5
" 6	本多 喜三郎	4 6
" 7	矢羽々 崇	4 7
" 8	山路 朝彦	4 8
" 9	渡部 重美	4 9
ドイツ語講読Ⅱ—1	片岡 啓治	5 0
" 2	金井 満	5 1
" 3	亀谷 敬昭	5 2
" 4	洲崎 恵三	5 3
" 5	鳥海 金郎	5 4
" 6	中島 悠爾	5 5
" 7	(前期) 本多 喜三郎	5 6
	(後期) 林部 圭一	
" 8	前田 和美	5 7
" 9	山本 淳	5 8
" 10	渡辺 学	5 9
独作文	M. 鮎貝	6 0
" 2	K. O. Bei Bwenger	6 1
" 3	B. Ebert	6 2
" 4	H. Jarosch	6 3
" 5	C. Jobst	6 4
" 6	U. 川村	6 5
" 7	H. J. Troll	6 6

独会話	1	M. 鮎貝	67
"	2	K. O. Bei Bwenger	68
"	3	R. Briel	69
"	4	R. Briel	70
"	5	B. Ebert	71
"	6	H. H. Gäthke	72
"	7	H. Jarosch	73
"	8	U. 川村	74
"	9	N. Meisemann	75
"	10	I. Szathmary	76
"	11	H. J. Troll	77
時事ドイツ語 I — 1	(前期) 金井 满	78	
		(後期) 林部 圭一			
"	2	木内 基実	79
"	3	黒田 多美子	80
"	4	中島 悠爾	81
"	5	古田 善文	82
商業ドイツ語 I	R. Sandrock	83	
時事ドイツ語 II — 1	K. O. Bei Bwenger	84	
"	2	B. Ebert	85
"	3	H. Jarosch	86
"	4	C. Jobst	87
"	5	N. Meisemann	88
"	6	I. Szathmary	89

「ドイツ語学・文学」部門

ドイツ語学概論	川島 淳夫	1
ドイツ語学特殊講義 I	渡辺 学	5
" 2	H. Jarosch	7
中高ドイツ語	I. Albrecht	91
ドイツ文学概論	亀谷 敬昭	3
ドイツ文学各論	関徹雄	9
ドイツ語学講読 I	下川 浩	93
ドイツ文学講読 I	糸井 透	94
ドイツ語学講読 II	柿沼 義孝	95
ドイツ文学講読 II	(前期) 川野 謙	96
		(後期) 山中 康子		

「ドイツ文化」部門

ドイツの宗教	鈴木康治	13
ドイツの歴史	古田善文	27
ドイツの地誌	川野謙	31
ドイツ事情	H. H. Gähke	29
ドイツの民俗	杉山好	33
ドイツの音楽	近衛秀健	15
ドイツの美術	片岡啓治	17
ドイツの演劇	越部遙	19
ドイツ文化特殊講義1	船戸満之	21
" 2	G. Wienold	23
ドイツの政治	深谷満雄	35
ドイツの経済	大島通義	37
ドイツの法律	中山幸二	39

「第二外国語」部門

英語III-1	阿部一	97
" 2	岩田道子	98
" 3	日下正一	99
" 4	白鳥正孝	100
英語IV-1	篠田愛理	101
" 2	菅原清次	102
英会話I-1	T. J. Fotos	*
" 2	C. B. 池口	103
" 3	D. M. Meyers	104
" 4	R. M. Payne	105
" 5	J. M. Thurlow	106
" 6	L. Villeneuve	107
英会話II	D. R. Kogge	108

*最初の授業で指示する。

科 目 名	ドイツ語学概論 ドイツ語学概論（旧）	担当者名	川 島 淳 夫
-------	-----------------------	------	---------

講義の目標	前期はドイツ語を歴史的観点に立って記述する比較言語学を紹介し、後期はドイツ語の共時的研究としての現代ドイツ語文法について論述することによって、ドイツ語の全体像を把握することを目的とする。				
講義概要	上記の目的を達成するために、言語の音声的側面の研究（音声学・音韻論）、統語的側面の研究（統語論・諸文法論）、意味的側面（意味論）、言語使用の側面（実用論）、その他形態論（造語論）、文体論、テクスト言語など、言語学の諸分野を概観する。言語学上の諸概念に触れるので、参考文献として『言語学小辞典』を使用する。				
使用教材	テキスト	特に指定するものはない。			
	参考文献	下宮忠雄・川島淳夫・日置孝次郎編『言語学小辞典』国学社 1985。 川島淳夫他編『ドイツ言語学辞典』紀伊国屋書店 1994。			
評価方法	評価は前期後期各1回の筆記試験と出席回数によって決定する。				
受講者に対する要望など					

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	言語とは何か。ドイツ語という個別言語はどのように位置づけられるかについて論述する。
2	言語は変化する。ドイツ語はどのように変化したかについて考える。
3	ゲルマン諸語について考える。
4	ドイツ語の時代区分について論述する。
5	Ahd, Mhd, Nhd の比較。
6	Mhd のテクストを読む。
7	同上。
8	語源とは何か。Deutschの語源を通じて、ドイツ語の位置づけをする。
9	音声的側面について、特に、発音のメカニズムについて述べる。
10	同上。
11	音韻的側面について考える。音韻の変化と言語の変化との関連について述べる。
12	同上。
備考	同上。

後期

週	主要テーマ
1	形態論・造語論を中心に、語形成の諸問題について述べる。
2	同上。
3	統語論を中心に、諸文法論を紹介する。文の生成と文の構造について考える。
4	同上。
5	同上。
6	語と文の意味論の紹介。
7	同上。
8	語句や文の使用上の諸問題を扱う。言語実用論・発語行為論を中心に文の意味と働きについて考える。
9	同上。
10	ドイツ語の会話・手紙・広告などのテクスト分析について、テクスト言語学的側面について論述する。
11	同上。
12	同上。
備考	

科 目 名	ドイツ文学概論 ドイツ文学概論（旧）	担当者名	亀 谷 敬 昭
-------	-----------------------	------	---------

講義の目標	本講義は18世紀の近代ドイツ文学の成立から、20世紀の初頭に至るドイツ文学の発展を概観し、それぞれの時代と作家の生き方が作品にどのように表現されたかを観察する。今年度はロマン主義から写実主義への展開を中心とする。				
講義概要	ゲーテ、シラーを中心とするドイツの古典主義文学は成立すると、直ちにより若い世代のロマン主義文学運動の波に洗われることになる。これは自我中心の近代性と過去への愛着が奇妙に張合し、フィヒテの絶対自我にささえられたものであった。ロマン主義はそれ自体すぐれた作品を生み出さなかったが、その周辺にすぐれた作家や作品を誕生させた不思議な運動であった。1830年の7月革命を境として写実主義へと傾向は移っていくが、ドイツ文学特有の詩的写実主義がここでも中心となり、この教養主義的な内省的傾向がすぐれた作品を生み出していくのである。				
使用教材	テキスト				
	参考文献	授業時間中に指示する。			
評価方法	前期のレポートおよび年間3点ほどの授業時間中のレポート、後期の試験によって定める。				
受講者に対する要望など					

前期

年間講義予定

週	主　要　テ　ー　マ
1	シラーの晩年の作品「ワレンシュタイン」三部作と「ヴィルヘルム・テル」について。
2	ゲーテの長編小説「ヴィルヘルム・マイスターの修業時代」と「ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代」の比較。
3	ゲーテの「ファウスト」第1部と第2部の成立について。
4	種々なファウスト作品とゲーテの「ファウスト」の比較。
5	ロマン派の文学運動とシュレーゲル兄弟。雑誌「アテネーウム」の果した役割。ゲーテ、シラーとロマン主義文学運動。
6	フィヒテ、シェリング、シュライエルマッヒャーなどの哲学者とロマン主義文学運動。
7	ジャン・パウルとヘルダーリンの作品。「ヒュペーリオン」の解説。
8	戯曲作家および短編小説家としてのクライストの作品。
9	ロマン主義文学から写実主義文学への転換とその時代的背景について。
10	小説の時代を築き上げた19世紀のフランス、ロシアの写実主義文学の発展。
11	ドイツ写実主義文学の特質。
12	ハイネと「ドイツ、冬物語」
備考	

後期

週	主　要　テ　ー　マ
1	ビューヒナーの「ダントンの死」とヘッベルの「マリア・マグダレーネ」新しい時代への出発と伝統的価値の維持との相克。
2	詩的写実主義の小説。ケラーの「緑のハインリッヒ」とシュトルムの「白馬の騎者」。教養小説の展開過程。
3	ドイツ自然主義文学の特質。ヨーロッパの文学全体との関連について。
4	ゲルハルト・ハウプトマンの作品。「日の出前」と「職工たち」における新しいものと古いもの。
5	19世紀の終末とニーチェの「ツアラトゥストラ」の予言的文学
6	20世紀初頭の時代背景。迫り来る大戦の危機と伝統的な権威の低下、さらに社会的な不安感の増大。
7	近代詩の世界におけるリルケとゲオルゲ。
8	カフカの作品の特色。「変身」と「城」の投げかける問題性。
9	ヘッセの小説作品。「デミアン」と「荒野の狼」の解明。
10	カロッサとヴィーヘルト。ドイツ文学の伝統的価値の再確認。
11	トーマス・マンの作品。「ブッテンブローク家の人々」をめぐって。
12	「魔の山」。20世紀におけるドイツ精神の到達点。
備考	

科 目 名	ドイツ語学各論 1 ドイツ語学特殊講義 1 (旧)	担当者名	渡 辺 学
-------	------------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	受講生諸君がこれまでに培ってきたドイツ語の知識を前提として、ドイツ語の構造を客観的、かつなるべく具体例に即して把握する訓練をする。つまりは、ドイツ語のいわゆる「中級文法」を扱うと思っていただいてよい。本講義に参加することで、文法の術語や意味論の方法になれてもらい、自分でドイツ語を分析したり、ドイツ文を解釈する際の一助としてもえればと思っている。			
講 義 概 要	本講義はドイツ語学（言語学）の範疇に属するが、必要に応じて、一般言語学や対照言語学に話が及ぶこともある。一定の教科書は使用せず、参考文献は随時紹介し、また、プリントを配布する。なるべくわかりやすい話を心がけるが、その一方で、学会の最先端の領域に踏み入ることもあるかもしれない。扱うテーマについては、年間講義予定を参照されたい。基本的な参考文献として、以下のもの（あるいはその類書）、とくに文法（形態論・統語論）、意味論の箇所にある程度親しんでおいてもらいたい。			
使 用 教 材	テキスト	特に指定しない。		
	参考文献	G. ュール著（今井・中島訳）『現代言語学20章』大修館書店 1987 風間喜代三他著『言語学』東京大学出版会 1993 辞典としては、川島淳夫他編『ドイツ言語学辞典』紀伊国屋書店 1994 など。		
評 価 方 法	前期・後期のレポート、および授業への貢献度による。詳細は追って指示する。			
受講者 に對 する 要 望 な ど	受身の姿勢ではなく、関連文献をこまめに読み、自分の頭で考え、積極的に参加してほしい。			

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	言語学（一般言語学）の概観ならびに講義への導入。
2	造語論・形態論(1) ドイツ語の造語能力を紹介・概説する。
3	造語論・形態論(2) 省略語について。
4	正書法 大文字書き・小文字書き、句読法など。
5	品詞論(1) 英語、日本語との対照を適宜まじえる。
6	品詞論(2) 続き
7	語順 ドイツ語の標準語順と階層性について
8	文肢 その歴史と有用性について
9	ヴァレンツ理論(1) ヴァレンツと統語論
10	ヴァレンツ理論(2) ヴァレンツと意味論
11	文の種類
12	文とテキスト（前期のまとめ）
備考	

後期

週	主要テーマ
1	意味論の歴史概観
2	W. von フンボルトの意味論・語彙論
3	成分分析
4	同義語・類義語
5	反義語
6	多義語、同音異義語
7	慣用句の意味
8	意味論と語用論(1)
9	意味論と語用論(2)
10	文法と意味の関係
11	予備日（論じきれなかったテーマを扱う）
12	講義全体（とくに後期）のまとめ
備考	

科 目 名	ドイツ語学各論 2 ドイツ語学特殊講義 2 (旧)	担当者名	H. Jarosch
-------	------------------------------	------	------------

講 義 の 目 標	外国語の系統的勉強の前提条件の一つは言語史である。講義の目的は、ドイツ語の総体的な発展の簡略的描写であり、さらにドイツ人を、その言語史的な発達という面からも、よりいっそう深く理解することである。研究は、ドイツ語の基礎的学习にも役立つ事と、日本語の史的な発展との比較研究をサポートすることも目指している。				
講 義 概 要	各言語の発生と発達は、ある共同体に依存している。又民族移動というのは、新しい民族共同体の編成と形成を促進する。そのためゲルマン民族共同体の区域では、新しい種族共同体も編成され、ついにお互いの言語的な接近によって、新しい言語類縁関係に発達する。そして、テオディスカ リングアの 発達によって、当時の支配的な立場にあったラテン語と、ギリシャ語が敗退する。その次に古高ドイツ語の発展は、ドイツ語そのものの民族的な性格を促進させ、ヨーロッパの歴史のながれに大きな影響を与える。最終的なドイツ語の言語統一によって、ドイツ人の民族性いわゆる民族魂というのが成立する。				
使 用 教 材	テキスト	1. Heinz Fischer ; <i>Die deutsche Sprache</i> , E.Schmidt Verlag Berlin, Doogakusha Tokyo 2. Eigenes Skriptum (プリント配布)			
	参考文献	Leo Weisgerber ; <i>Die geschichtliche Kraft der deutschen Sprache</i> , Düsseldorf 1959 Adolf Bach ; <i>Geschichte der deutschen Sprache</i> , Quelle & Meyer, Heidelberg 1965			
評 価 方 法	前後期各1回のレポートと授業への参加度によって決定する。				
受 講 者 に 對 す る 要 望 な ど					

前期

年間講義予定

週	主　要　テ　ー　マ
1	Einführung : Geschichte der Sprachen / Einschätzung der Muttersprache p.1 入門、言語史とは、母国語の評価
2	Abschnitte der erhöhten Wirksamkeit der deutschen Sprache : Abschnitt 1-3 p.2 ドイツ語は、六つの時代にその効力の頂点に達している。①紀元前900年頃 ②1300年頃 ③1500年頃
3	Abschnitte der erhöhten Wirksamkeit der deutschen Sprache : Abschnitt 4-6 p.3-4 上と同じ ①17世紀頃 ②19世紀頃 ③20世紀
4	Anfänge der deutschen Sprache. Der Name "deutsch". Vgl. mit JAPAN : Yamato-zeit. ドイツ語の起源 ドイツという表現 日本語との比較日本という表現(日本書記)
5	StammesSprachen und Hochsprache. Vgl. mit Japan, besond. Ryuukyuu-Sprache. p. 10-13 部族語と民族語 日本語との比較 琉球語
6	Genealogische Verwandtschaft Vgl. mit Japan : Türkisch / Altaisch / Koguryo p.15 系統学的な類似 日本語の場合トルコ語。アルタイ語。
7	Deutsche Sprachräume p.16-18 ドイツ語の言語使用地域
8	Der Weg zur Hochsprache : Althochdeutsch (750-1050) Vgl. mit Jap. Nara, Heian, Kyoto p.19-20 古高ドイツ語への上達 日本語との比較 奈良時代 平安時代 (=古高日本語)
9	Mittelhochdeutsch (1200) Vgl. mit Jap. : Mitteljapanisch, Kamakura, Muromachi p.21 中高ドイツ語 / 鎌倉時代 室町時代 (=中高日本語)
10	Neuhochdeutsch (1500) Vgl. mit Jap. : Edo-Zeit / Neujapanisch p22 新高ドイツ語 / 日本語との比較 江戸時代 (=新高日本語)
11	Deutsch der Gegenwart Vgl. mit Jap. : Kindai-Nihongo, Japanisch der Gegenwart p.23 近代ドイツ語 / 日本語との比較 近代日本語
12	Zusammenfassende Übersicht. Eine sprachgeschichtlich wichtige Grundfrage しめ括りの一括 言語史に関する重大な基本問題とは
備考	

後期

週	主　要　テ　ー　マ
1	Die Blütezeit der deutschen Sprache ドイツ語の全盛時代
2	Die Entdeckung der deutschen Sprachgemeinschaft. Gründung von Sprachgesellschaften ドイツ語共同体の発見 ドイツ語協会の設立
3	Die sprachliche Einigung und religiöse Spaltung Verselbständigung des Niederländischen 言語的統一 宗教的分裂 オランダの独立
4	Die deutsche Sprache und das geschichtliche Wollen der Deutschen ドイツ語とドイツ国民の史的志望
5	Die Werte der deutschen Sprache. ドイツ語にみられる価値 宗教的と原始的言語力 ドイツ人の哲学的な思考と文学的な創作にふさわしい言語
6	Eingreifen der Sprachgemeinschaft in die Geschichte ドイツ語共同体の歴史への参加
7	Die deutsche Nation ドイツ国家国民
8	Die geschichtliche Wirksamkeit des Sprachgedankens 言語という観念の史的作用
9	Gerechtigkeit im Sprachlichen 言語の世界とそれぞれの言語に対する政治的・正義的 配慮
10	Sprachliche Reibungen und Regelungen 言語的摩擦と言語の取り締り
11	Rückwirkung der deutschen Sprache auf die geistige Haltung der Deutschen ドイツ人の精神的な世界を左右するドイツ語
12	Resümee und Bekanntmachung des Themas für den Abschlussbericht 総括的な復習、レポートのテーマ発表。
備考	

科 目 名	ドイツ文学各論 ドイツ文学各論（旧）	担当者名	関 徹 雄
-------	-----------------------	------	-------

講義の目標	—ドイツ古典主義と現代— 文学の精神史的研究の立場にあるFritz Strichのテクストを用いて、ドイツ古典主義と現代との関連を講義形式で授業を行う。			
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 論者の立場である精神史派の成立過程ならびに特徴を論ずる。 2 ドイツ古典主義の特質について解説する。 3 T. Mann がドイツ古典主義を、どのように受容、把握したかを説明する。 4 (1~3) を論じた後、テクストを講義形式で講読する。 			
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> • F. Strich ; <i>Schiller und Thomas Mann</i>, (コピーして配布する) 		
参考文献		<ul style="list-style-type: none"> • 『ドイツ文学案内』(岩波文庫別冊) • トーマス・マン『シラー試論』(トーマス・マン全集新潮社版第9巻) • 内藤克彦著『シラー』(清水書院発行、定価620円) その他、講義中指示する。 		
評価方法	前後期2回の試験による。テクストの内容についての解釈、説明を要求する。辞書、参考書等を持参してもよい。			
受講者に対する要望など	内容は論の積上げであるから、欠席しないこと。			

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	精神史派文芸学の由来
2	同上
3	精神史派文芸学の展開
4	精神史派に由る F. Strich の研究方法と特質
5	同上
6	ドイツ古典主義の特質について
7	同上
8	T. Mann のドイツ古典主義にたいする受容、把握の仕方について
9	同上
10	以下、テクストにしたがって講義する。 1955年のT. マンのシラー試論についての意味
11	同上
12	現代のシラー理解について
備考	

後期

週	主要テーマ
1	シラー主宰の雑誌「ホーレン」発刊、劇「ワレンシュタイン」発表時のシラー自身の時代に対する態度
2	同上
3	同上
4	シラーの精神態度と現代との比較
5	同上
6	同上
7	シラーの美的理念、特に「美的教育書簡」について
8	同上
9	シラーのドラマ「マリア・ステュアルト」、「ウィルヘルム・テル」の現実性について
10	同上
11	同上
12	シラー精神の受容者としてT. マンについて
備考	

科 目 名	ドイツ文化史概論	担当者名	渡 部 重 美
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	単なる知識の羅列に終わることなく、受講者の皆さんのが今後自分のテーマを見つけ、考えを深めてゆくためのきっかけとなるような刺激的な授業にしたいと思っている。				
講 義 概 要	ドイツ文化とは何か?——仮にこの問い合わせに明快な解答を与えることができたとしても、その「ドイツ文化」に含まれる全ての分野・領域を通史的に概観してゆくことは到底不可能である。年間講義予定表を見て頂きたい。ここに示したのは、ドイツ史やドイツ文学史等で用いられる時代区分を、18世紀から20世紀初頭に重点を置いてアレンジしたものである。授業では、この時代区分にそって、各時代を代表すると思われる顕著な文化的事象——それは思想であったり、文学、絵画、音楽の場合もある——をいくつかピックアップして、できる限り具体的に検討してゆきたい。				
使 用 教 材	テキスト	特定のテキストは使用しないが、毎回参考資料をコピーで配布する。			
	参考文献	必要に応じて、その都度指示する。			
評 価 方 法	<p>年間6回のレポートにより成績をつける。年間講義予定表に示した日に、各レポートのテーマ、提出日を発表する。</p> <p>レポート(小) = 原稿用紙3~5枚(1200~2000字) レポート(大) = 原稿用紙5~10枚(2000~4000字)</p>				
受講者に対する要望など					

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	ナチズムとドイツ文化——本論への導入。
2	12~13世紀の宮廷・騎士文化Ⅰ。
3	12~13世紀の宮廷・騎士文化Ⅱ。
4	印刷技術の発明と宗教改革Ⅰ——グーテンベルクによる印刷技術の発明、民衆本。 レポート(小)
5	印刷技術の発明と宗教改革Ⅱ——ルターと宗教改革。
6	バロックの文化——三十年戦争と魔女狩り。
7	啓蒙主義の時代Ⅰ——フリードリヒ大王のベルリンについて。
8	啓蒙主義の時代Ⅱ——理性の時代を脱く理論家たちと一般市民の現実。カントの『啓蒙とは何か』を手掛かりにして。 レポート(小)
9	啓蒙主義の時代Ⅲ——理性の時代の裏で跳梁する山師たち、秘密結社、フリーメーソン。
10	啓蒙主義の時代Ⅳ——モーツァルトの『魔笛』を見る。
11	啓蒙主義の時代Ⅴ——内面化された啓蒙思想としてのシュトゥルム・ウント・ドラング。ゲーテの『若きヴェルターの悩み』を中心に。 レポート(大)
12	(予備日)
備考	

後期

週	主要テーマ
1	フランス革命への期待と失望Ⅰ——ドイツ古典主義。ゲーテ、シラーと理想化された古代ギリシャ。特にシラーの後期ドラマに注目する。
2	フランス革命への期待と失望Ⅱ——ドイツ觀念論哲学。フィヒテ、シェリング、ヘーゲル。
3	フランス革命への期待と失望Ⅲ——ドイツロマン派。ノヴァーリスのメルヘン『ヒヤシンスとバラ』を手掛かりにして。
4	フランス革命への期待と失望Ⅳ——ビーダーマイマーとハイネ。 レポート(小)
5	産業革命・科学技術時代の始まりとニーチェの近代文化批判Ⅰ——ショーベンハウアーとニーチェ。『反時代的考察』を中心に。
6	産業革命・科学技術時代の始まりとニーチェの近代文化批判Ⅱ——ワーグナーとニーチェ。『悲劇の誕生』を中心に。
7	世紀転換期の文化——「ミュンヘンの黄金時代」について。シュヴァービング、ユーゲント・シュティール。
8	ワイマール文化——特に映画産業の発達についてⅠ
9	ワイマール文化——特に映画産業の発達についてⅡ レポート(小)
10	ナチズムの時代Ⅰ——国内に止まった文化と国外に流出した文化。
11	ナチズムの時代Ⅱ——ユダヤ人問題を歴史的に振り返る。 レポート(小)
12	一年間のまとめ。
備考	

科 目 名	ドイツの思想 ドイツの宗教（旧）	担当者名	鈴木康治
-------	---------------------	------	------

講義の目標	おおよそ、宗教改革の問題の展開にある。ルターの信仰の問題を問う。				
講義概要	講義予定表を参照のこと。				
使用教材	テキスト				
	参考文献	新約聖書を持参のこと。時折りプリント配布の予定。			
評価方法	年一回の、ノート持ち込みのテストによる。				
受講者に対する要望など	静聴が望ましい。				

年間講義予定

前期

週	主　要　テ　ー　マ	
1	概要の説明	
2	神秘主義から始める理由	
3	修道院制度	
4	神秘主義の流れ	
5	神秘主義の神観 1 (否定の神学)	
6	同上 2 (反対の一一致)	
7	同上 3 (極上への道)	
8	エックハルトの神秘思想 1	
9	同上 2	
10	同上 3	
11	同上 4	
12	ドイツ神学について	
備考		

後期

週	主　要　テ　ー　マ	
1	宗教改革の思想	
2	宗教改革の背景	
3	ルターにおける死の問題 1	
4	同上 2	
5	信仰とわざの問題 1	
6	同上 2	
7	同上 3	
8	同上 4	
9	死の準備のための説教 1	
10	同上 2	
11	同上 3	
12	死の問題	
備考		

科 目 名	ドイツの音楽 ドイツの音楽(旧)	担当者名	近衛秀健
-------	---------------------	------	------

講義の目標	18世紀以降、目ざましく発達した西洋音楽の歴史の中で中欧（ドイツ語圏）は特殊な地位を示めている。イタリー、フランス等先進国に追随するだけのこの地方に、室内楽という器楽合奏形態が芽生え、更に大規模に交響楽と拡大される。第2次大戦でこの地は廃墟と化し、その後音楽は電波や録音中心に国際化、地域の特殊性が失われてしまう。1700年から1950年ごろ迄のこの地の音楽について検証して行く。（ドイツと言う言葉の中にはオーストリア、チェコ等中欧圏は全部含まれるものと解する。）	
講義概要	音楽は何といっても音あってのものだから、無味な講義は音に関する興味を遠ざけるばかりである。LDやテープでこれを味わいながら進行していく。一般的に日本人はオペラに暗いし、音楽を理屈でとらえたがる傾向がある。音なしの講義で生半可な通人が輩出することは音楽家として一番危険な事なので、すべて音でこれを感性に訴えるよう心がけたい。音楽についてダイジェストは最も望ましくない接し方なので、必ず全曲聴くようにしたい。オペラの長さを考えると一幕一時間前後と考えられるので、三幕ものなら三時限を使用する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	必要に応じプリントを配布する。
評価方法	西洋文化の中でユニークな中欧の音楽を聞いて、これを自分の感性で考えたりポートを書いてもらう。	
受講者に対する要望など	音楽は音である。講義中、音を出さぬよう、又、中途での出入りなど他人の迷惑となることは止めてほしい。	

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	講義とVIDEO。講義は年代を追い、VIDEOはなるべく新しく入手したものを使用する。鑑賞と講義は一致しない。音楽は心を白紙の状態にして聞くことが一番大切なので。
2	VIDEOの所要時間にあわせ、講義を進行する。
3	"
4	"
5	"
6	"
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	"
備考	"

後期

週	主要テーマ
1	前期を引つぐ。
2	"
3	"
4	"
5	"
6	"
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	"
備考	

科 目 名	ドイツの美術 ドイツの美術（旧）	担当者名	片 岡 啓 治
-------	---------------------	------	---------

講義の目標	かつて建築は、絵画・彫刻等々のさまざまな造型美術が転開される総合的な場となっていた。この枠付けを内側から支えたのが建築の構造であり、その構造にはその時代の技術・産業的能力等が集約されていた。そしてその構造体を生みだすのについては、時代の精神・思想がまず底流として働いていた。従ってこの講義では、単に表面にあらわれた様式の変化ではなく、建築が大きな時代精神の動きとしてどのように形作られたのか、またその中で諸美術がどのように位置づけられたかを、総合的に理解できるような講義としたい。
講義概要	限られた時間の中での講義であるため、建築構造の基本的特性がもっともよくあらわれている事例として、ヨーロッパの中世教会堂と現代の鉄筋コンクリート建築についてとりあげる。中世はキリスト教が普遍的な統合理念であり、現在の国境区分とは必ずしもかかわりがないので、ドイツと特定することなく、教会堂の普遍的形態を論じる。ついで、中世の、特にゴシック教会堂と構造的特性を共有するドイツのバウハウスにはじまる現代建築の問題について比較検討する。特にバウハウスが総合的な美術教育の場として、いかに中世をモデルとしたか、そしてカンディンスキイ、クレー等の芸術家がいかにその理念に共感して、その教育活動に参加したか、等を論じる。
使用教材	テキスト なし。
	参考文献 適時、資料を配付する。
評価方法	後期末レポート。ただし、継続的に講義をきいていなければ、出題内容を理解できない。従って、出席せずにレポートだけ提出しても、評価の対象にならないことを心得ておくよう
受講者に対する要望など	

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	建築の本質はイマジネーションに始まる。イメージがあって建築は生まれることを理解するために。
2	同上。
3	同上。
4	宗教建築の意味。中世ヨーロッパで、キリスト教教会堂は、どういう神学的理念の具体化として生みだされたか。
5	同上。
6	同上。
7	教会堂の形態は、どういう思想的な流れと文化伝統のなかで生みだされていったか。
8	同上。
9	同上。
10	建築構造の基本的問題。壁一構造と柱一構造。
11	同上。
12	同上。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	対比の意味で、柱一構造を主体とする日本建築の特性を、主として仏教寺院をとりあげて論じる。
2	同上。
3	同上。
4	建築体の枠づけの中で、絵画・彫刻・工芸・庭園などの造型諸美術はどのように展開されたか。東西の比較。
5	同上。
6	バウハウスについて。まず、成立の社会的背景。ドイツの産業革命と工業化。
7	同上。
8	バウハウスの目指したもの。その教育内容。
9	同上。
10	バウハウスにおけるカンディンスキーとクレーについて。
11	同上。
12	同上。
備考	

科 目 名	ドイツの演劇 ドイツの演劇（旧）	担当者名	越 部 遥
-------	---------------------	------	-------

講義の目標	講義は主としてドイツの現代劇を扱うが、その目標は演劇史や文学（戯曲）史を歴史の授業のように<通時的>に語ることにあるのではなく、今日の哲学的・社会思想的・心理学的関心事からドイツや日本等の現代劇を今日の時点で<共時的>に捉え直すことがある。演劇は現実を反映させる鏡とも言える。そして理想的な演劇は厳しい現実の反映の場でありながら同時に娯楽の場たりうるものを指す。現実反映の場であることに執着するドイツ現代劇に触れながら、受講者は、それに娯楽劇の味を加味する可能性を一緒に模索してほしいのである。		
講義概要	<ドラマ>そのものは言葉ではなく、臨場感ある緊張を言う。戯曲や演劇はこの緊張感を醸成するための前提事項を主として言語を通して語る／語らせる場と言える。従ってこの言語が万人にとって機能する限り<ドラマ>も商品として機能しうるわけだが、現代においては言語そのものの変質/多様化が商品としての<ドラマ>の売れ行きを怪しくしているのである。演劇史は作品の内容・表現形式・言語様式の3点から<ドラマ>の醸成に務めた成果とも呼べようが、講義では、未来の演劇に向けての解説、つまり一時的な舞台上の出来事内へ観客の関心を引き込むための<感情移入的>演劇ではなく、普遍的な日常実生活との照合を観客にとって可能にするような<感情異化的>演劇の解説に徹するつもりである。		
使用教材	テキスト	適時コピー・プリントを配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『戦後ドイツ』三島憲一. (1991) 岩波新書（赤版） ・増補『ドイツ文学案内』手塚富雄, 神品芳夫. (1993) 岩波文庫別冊 ・「第2次大戦後のドイツ演劇」越部遙. 『ドイツハンドブック』内 (1984) 三省堂 ・『術語集』中村雄二郎. (1984) 岩波新書（黄版） ・『言葉と無意識』丸山圭三郎. (1987) 講談社現代新書 ・『ブレヒト』岩淵達治. (1980) 清水書院 	
評価方法		評価は前後期各1回のレポートと授業への参加度によって決定する。前期のレポートは後期第1週の授業時に教場で提出し、後期のレポートは後期最終授業時に「試験」の形で答案用紙に（予め下書きしたものを）清書し提出すること。レポートのテーマと書式は教場で説明する。	
受講者に対する要望など		教場は学ぶためにあるというよりも共に考えるためにある、と思ってほしい。データ（事実）取得のための学習から、自主的に共に考える場としての教場に馴れ、その思考法をレポートに活かす努力をしてほしい。	

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	年間の講義についてのオリエンテーション：1) (成績)評価の仕方を含む事務的事項の説明。2) 講義の受け方について(ノートをとるよりも考える場にすること)。3) 現代劇の諸問題(自己/他者、個人/社会等)。
2	講義に関する(或いは講義では触れられぬ)参考文献の指示。(コピー・プリントで)詳しく説明しながら、受講者の参加の姿勢を促していくたい。
3	ドラマとは何か？ ドラマトゥルギーの変遷について：現代劇の諸問題への理解を深めるための演劇史への回顧：アリストテレスの詩学、ブレヒト劇、ベケット劇、別役実劇等。
4	同上。アリストテレス的演劇(幕割劇)と非アリストテレス的演劇(場割劇)の区別等。
5	同上。ブレヒトの叙事詩的演劇(非アリストテレス的演劇)の無標性、脱モラル化、両面価値化の方法。
6	ブレヒトのテキスト(I)：『三文オペラ』を中心に。K. ヴァイルの音楽も聞かせる。
7	ブレヒトのテキスト(II)：4大作品(『肝っ玉おっ母とその子供たち』『セチュアンの善人』『コーラスの白墨の輪』『ガリレイの生涯』)について考える。
8	ブレヒトのテキスト(III)：『コーラス』のビデオを観せる。『ガリレイ』のカーニバルの場面を(バフチンの両面価値論に照らして)考える。
9	ブレヒトの教育劇について。バフチンの両面価値化の方法とH. ミュラーの(教育劇の)継承方法にも触れる。
10	ミュラーのテキスト(I)：ブレヒトの教育劇の継承・発展者としての作品を紹介する(『ホラティ人』『モーゼル』等)。
11	同上。『ヴォロコラムスク幹線路』にも触れる。
12	前期レポート作成のための詳細な説明を行う。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	P. ヴァイスのテキスト(I)：『マラー/サド』劇を中心に。ホルクハイマー/アドルノの『啓蒙の弁証法』等にも触れる。
2	ヴァイスのテキスト(II)：『追究』等の世界演劇・記録演劇に因んで、R. ホーホフト、H. キップハルト、D. フォルテラの仕事をも追う。(マクロ世界の演劇とミクロ世界の演劇)
3	M. ヴァルザーの<意識の演劇>論：出来事の過程ではなく結果を描き、前提事項を想像させる演劇。(アメリカのSF映画等にも触れながら)
4	P. ハントケのテキスト(I)：『カスパー』劇を中心に演劇改革的なその意義を拾う。
5	ハントケのテキスト(II)：『ボーデン湖上の騎行』『不安』等。新民衆劇(ミクロ世界の演劇)の先駆者としてのホルヴァートとフライサーの紹介。
6	ホルヴァートとフライサーのテキスト：前者の『ウィーンの森の物語』と後者の『インゴールシュタットの煉獄』を中心に。
7	新民衆劇作家M. シュペル、R. W. ファスピングラー、F. X. クレツ。(『ニーダーバイエルンの人狩り』『外人野郎』『内職』等)
8	〔頭の体操〕デュレッマットの喜劇：悲劇を書こうと努力しながら喜劇作家になってしまった作者のグロテスク劇。
9	T. ドルスト劇とB. シュトラウス劇：前者の清算されざる過去の問題と後者のアパシーとセラピーの演劇を紹介する。(後者の『大人も子供も』のビデオを紹介的に観せる。)
10	シュトラウスのテキスト：『再会3部作』『女観光ガイド』等。マルクーゼ、フーコー、フロイト、ユングらの理論の助けを借りながら説明する。
11	同上。ミュラーのテキスト(II)：『ハムレットマシーン』等の脱構築的な作品をドゥルーズ、ガタリ、レーマンらの理論の助けを借りながら紹介する。
12	<試験>の形で教場でレポートを清書してもらい、提出を求める。
備考	

科 目 名	ドイツ思想・芸術各論1 ドイツ文化特殊講義1(旧)	担当者名	船 戸 満 之
-------	------------------------------	------	---------

講義の目標	ハンガリー出身の哲学者、美学研究者、文学史家であるゲオルク・ルカーチの生涯をたどりながら、その思想的展開をあとづける。文学論に比重を置く。				
講義概要	ルカーチは、1885年生れで、ブダペスト、ウィーン、ベルリン、ハイデルベルクで学んだ。世紀末的な悲愁をたたえたエッセイ集『魂と形式』やヘーゲル美学の影響を強く受けた『小説の理論』がドイツ語で発表され、ヨーロッパの思想界で注目を受けた。第一次大戦中にロマン主義的な反資本主義の立場からマルクス主義に傾斜し、1918年～19年のハンガリー革命に加わる。革命政権倒壊後亡命して執筆した『歴史と階級意識』は、激しい批判をあげた。戦間期は、哲学、美学、文学の研究に集中したが、1956年のハンガリー動乱には、政権の人民教育相となり、動乱鎮圧後、ルーマニアに抑留された。翌年釈放後、公職から退き、1971年ブダペストで没するまで、美学、倫理学にとりくんだ。				
使用教材	テキスト	プリントを配布する。			
	参考文献	『ルカーチ著作集』、白水社。			
評価方法	前後期末の試験では、1) 講義でとりあげるテーマについてのキーワードを理解したか否か（ドイツ観念論、社会民主主義、ロマン主義、ハンガリー動乱など）、2) テーマについての各人の意見の二点について出題する。聴講者が少ない場合は、討論、レポート、発表などの課題を出す。				
受講者に対する要望など	ドイツ文学の作品にふれることが多いので、あらかじめ読んでくることを期待する。				

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	年間の講義概要を説明する。
2	生い立ちとエッセイ集『魂と形式』
3	『小説の理論』。
4	ハンガリー革命への参加。
5	『歴史と階級意識』。
6	『マルクスへの私の道』における『歴史と階級意識』の自己批判。
7	表現主義をめぐる『Das Wort』誌上の論争。I 論争の背景。
8	II ルカーチの主張
9	III ルカーチの主張に対する反論。
10	『ドイツ文学小史 I』
11	『ドイツ文学小史 II』
12	期末試験。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	トーマス・マン論 I 『魔の山』。
2	II 『ヴェニスに死す』。
3	III 『ファウスト博士』。
4	IV 『フェリックス・クルル』。
5	病める芸術と健康な芸術の区別。
6	文学上部構造論。
7	文学上部構造論の日本における展開。
8	カフカ論。
9	ハンガリー動乱。
10	晩年のルカーチ。
11	予備。
12	期末試験。
備考	

科 目 名	ドイツ思想・芸術各論 2 ドイツ文化特殊講義 2 (旧)	担当者名	G. Wienold
-------	---------------------------------	------	------------

講義の目標	Die Sprache ist ein Teil menschlicher Kultur und ihrer Entwicklung und kann als solcher betrachtet werden. Es lohnt sich aber auch, Sprache anderen Kulturaspekten gegenüberzustellen und dabei Sprachen vergleichend zu betrachten.		
講義概要	Anhand ausgewählter Fälle werden Beziehungen zwischen sprachlichen Entwicklungen und kulturellen Entwicklungen betrachtet. Lexikon (Lexikalisierung und Kategorisierung), Grammatik, Pragmatik und Schrift sollen an Beispielen behandelt werden. Die Vorlesung findet z. T. auf japanisch, z. T. auf deutsch statt.		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	試験		
受講者に対する要望など			

前期

週	主　要　テ　ー　マ
1	Einleitung zum Thema: Sprache und Kultur
2	1. Grundbegriffe
3	2. Lexikon: Lexikalisierung 2. 1 Körperteilbezeichnungen und andere Taxonomien
4	2. 2 Farbwörter
5	2. 3 Perzeptionsverben
6	2. 4 Dimensionsausdrücke
7	2. 4 (Forts.)
8	3. Lexikon: Kategorisierung 3. 1 Prototyp
9	3. 2 Prototyp und Vagheit
10	3. 3 Polysemie und Familienähnlichkeit
11	4. Semantik und Pragmatik: 4. 1 Lokale Deixis
12	4. 2 Personale Deixis
備考	

後期

週	主　要　テ　ー　マ
1	5. Grammatik 5. 1 Numerus
2	5. 2 Numeralklassifikatoren
3	5. 3 Weitere nominale Klassifikationssysteme
4	5. 4 Genus
5	5. 4 (Forts.)
6	5. 5 Relativsätze
7	6. Schrift und Schriftsprache
8	6. 1 Schriftzeichen
9	6. 2 Die Entstehung der Inschrift
10	6. 3 Schriftsprache und Lexikon
11	6. 4 Schriftsprache und Grammatik
12	7. Schlubetrachtung
備考	

科 目 名	ドイツ史概論	担当者名	黒 田 多美子
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	歴史を学ぶにあたって重要なのは、単に過去の出来事や人名を暗記することではなく、現在の問題にどれだけ結びつけて考えられるかという事です。この講義では、多くの学生にとって苦痛であったと思われる“受験のための暗記科目”というイメージを破り、歴史を知ることのおもしろさを見つけることが目標です。				
講 義 概 要	ドイツという国家が人々の間に意識され、形成されていく19世紀初頭から、第二帝制期、第一次世界大戦、ヴァイマル共和国期を経て、ナチス体制のもとで第二次世界大戦へと突入していく過程を追います。そしてそのようなドイツの“過去”が、第二次世界大戦後、現在に至るまで、どのように意識され、問題となっているのかを、日本との比較を念頭において検討してみます。				
使 用 教 材	テキスト				
	参考文献	プリント配布			
評 価 方 法	前期はレポート、後期は未定。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど					

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	歴史を学ぶ事の意味：ドイツの学校では歴史をどのように学んでいるのでしょうか。日本の歴史教育との比較から歴史を学ぶことの意味を考えてみます。
2	ドイツにおける過去の克服：ナチズムという負の遺産を、ドイツではどのように克服しようとしてきたのか、また現在しようとしているのかを探ります。
3	ビデオ（“夜と霧”他）を見た上で、私達にとって過去の克服とはどのようなことを意味しているのか、話し合ってみます。
4	フィッシャー論争と歴史家論争：1960年代と1980年代に生じた、ドイツ史の連続性と特殊性をめぐる議論、およびその政治的背景について紹介します。
5	DeutschlandとReich：ドイツ史を理解する上で重要な概念であるこのふたつの単語が、どのような歴史的背景のもとに使われてきたかを紹介します。
6	国民意識とナショナリズム：ドイツ人が自己をドイツ人として意識するようになったのはいつ頃からでしょう。またその国民意識はどう変化したでしょう。
7	1848年：三月革命と総括される一連の民主化運動を概観します。民主主義者と自由主義者、プロイセンとオーストリアを比較します。
8	ドイツ帝国の成立：上からの統一が、その後のドイツにどのような影響を与えたのか、国民の統合という観点から考察します。
9	労働運動と社会主義：現在のドイツを規定する「社会的国家」という概念の基盤を形成した社会主義運動について理解を深めます。
10	第一次世界と総力戦：総力戦という言葉が初めて使われた第一次世界大戦の国民への影響について考えてみます。
11	第一次世界大戦と反戦・平和運動：各國が戦争へと国民を動員していく中で、反戦を掲げた勢力はどう反応していたのでしょうか。
12	レポートの書き方：前期の課題となるレポートのテーマと書き方について説明します。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	ビデオ：19世紀末から第一次世界大戦にかけての時期をあつかったビデオを見ます。
2	1918年11月革命：帝制から共和制への移行が、どのような過程で行われたかを中心に、共和国の政治的方向を規定した要因を探ります。
3	ヴェルサイユ条約と戦争責任問題：第一次世界大戦後、ドイツ国民はこの戦争とその結果であるヴェルサイユ体制をどうとらえていたのでしょうか。
4	同上
5	ヴァイマル共和国の理念と現実：当時最も民主的といわれた憲法のもとに発足した共和国がわずか15年という短い期間に崩壊した原因を探ってみます。
6	同上
7	ナチズム運動の理念と現実：ナチズム運動が国民もひきつけた要因と、国民のナチ体制への組織化を検討します。
8	同上
9	ナチ体制に対する受容と抵抗：ナチズムを支持した人々と、反対した人々の立場を検討します。日本の戦前の国民生活も考慮にいれて考えてみて下さい。
10	ビデオ：
11	侵略への道：自国中心のイデオロギーのもとに、他国を侵略することがどういうことか、日本の場合も含めて考えてみたいと思います。
12	まとめと討論：過去の克服という問題が、歴史的過去だけでなく現在とも密接に結びついている事を前提に、一年間の授業を振り返り討議します。
備考	

科 目 名	ドイツの歴史 ドイツの歴史(旧)	担当者名	古 田 善 文
-------	---------------------	------	---------

講義の目標	本講義では、「ドイツ人」の歴史的歩みを、簡潔に理解することを目的としている。具体的には、現代史重視の観点から、おもに20世紀ドイツ史の検討を行う。講義では、ドイツ現代史にかかわる基礎的知識の修得はもとより、テーマによってはグループ発表や受講者との討論などを実施し、歴史的な考え方を育成することにも力を注いでみたい。				
講義概要	年間を通じて、本講義では以下の歴史的観点を重視する。 ①政治家の視点、つまり事件史的・政治史的視点のみから歴史の流れを把握するのではなく、近年の「日常生活史」・「社会史」的成果をできるかぎり摂取しながら、民衆の視点からドイツ近現代史を理解すること。 ②ドイツ近現代史の理解に際して、一国史的把握にとどまるのではなく、つねにAA諸国を含めた世界史的流れのなかでドイツ史を位置づけるようにすること。 ③「ドイツ」という概念には、オーストリアなどの他のドイツ語圏諸国・地域を含めて考えること。				
使用教材	テキスト				
	参考文献	そのつど指示する。原則として講義レジュメを毎回配布する予定。			
評価方法	昨年と同様、前記はレポート、後期は期末テストを実施。評価に際しては、出席も重視する。				
受講者に対する要望など					

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	年間計画・講義のねらい・評価方法の説明。現代史を学ぶ意義や楽しさを具体的エピソードをまじえながら解説。
2	プロイセンとハプスブルク——1848年革命から1871年のドイツ統一までを大ドイツ主義・小ドイツ主義の相剋という観点から概観する。
3	世界帝国への夢——ヴィルヘルム2世とドイツ帝国主義。海外進出を支えた「土地なき民」と「結集政策」。第1次世界大戦の原因論（ドイツの戦争目的の連続・非連続の問題）についての主要学説の紹介・検討。
4	現代の開幕——第一次世界大戦の経過。戦時における民衆生活。反戦運動の高揚。大戦の歴史的意義。
5	中欧の革命——ドイツ労働者運動の系譜。ドイツ革命とドイツ第2帝政の崩壊。オーストリア革命とハプスブルク帝国の終焉。2つの共和制の成立と反革命。
6	講和と賠償——パリ講和会議の経過。ヴェルサイユ条約とサン・ジェルマン条約の内容を比較検討。
7	ファシズムの誕生——イタリア・ドイツ・オーストリアのファシズム運動の比較検討。ファシズム論の変遷と主要学説の紹介。
8	ヴァイマルの光と影——ミュンヘン一揆。シュトレーゼマン時代（相対的安定期）。黄金の20年代・ヴァイマル文化。世界経済恐慌の勃発。
9	ヒトラーの政権掌握——民主勢力の後退とナチス運動の台頭。1933年1月30日のヒトラー政権を可能にした原因の分析。
10	ナチズムと民衆——政治的反対勢力・ユダヤ人の弾圧。民衆統括の手法（ナチズムと労働者・農民・青年層）。
11	戦争への序曲——ルール進駐と最軍備。オーストリア「併合」（アンシュルス）。チェコ＝スロヴァキアの消滅。独ソ不可侵条約の衝撃。「ヒトラー神話」と民衆。
12	前期のまとめと討論。夏期レポートの課題説明。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	第2次世界大戦——ポーランド侵攻から「総力戦」まで、戦争の経過をたどる。
2	戦争と民衆——戦争犯罪への加担。強制労働。ユダヤ人に対する犯罪。ナチ戦時体制下の民衆生活。「抵抗運動」。
3	「解放」と「崩壊」——連合国の大戦後構想の変遷。ヤルタ・ポツダム体制の特徴。大戦の終結過程。
4	『第3の男』の時代——ドイツ・オーストリアにおける連合国管理体制の実態と問題点。日本との比較検討を含む。
5	戦争と人の移動——戦争に由来する大量難民（流民）の発生。“シンドラーのユダヤ人”的ゆくえ。連合国対応。
6	過去の克服——ニュルンベルク裁判。ドイツ・オーストリアにおける「非ナチ化」。敗戦と「帝国意識」の継続。戦後補償をめぐる問題。
7	冷たい戦争——ソ連占領地区（S B Z）における諸「改革」。西部ドイツ（オーストリア）とマーシャル・プラン。
8	ドイツの分断——通貨改革。ベルリン封鎖。東西ドイツの成立。
9	オーストリアの選択（1945～1955）——占領長期化の原因。国家条約。永世中立への道程。
10	2つのドイツ——西ドイツのNATO加盟と再軍備。東ドイツの「社会主義」と「ベルリンの壁」成立の背景。対立から協調へ（プラントの東方外交）。
11	ドイツ統一の光と影——東欧民主化革命と東ドイツの崩壊。ドイツ統一の経過と評価。EU新時代とドイツ・オーストリア。
12	後期のまとめと討論。期末試験の課題説明。
備考	

科 目 名	ドイツの社会・事情 ドイツ事情(旧)	担当者名	H. H. Gähke
-------	-----------------------	------	-------------

講義の目標	Die Teilnehmer an diesem Kurs sollen sich mit den Grundlagen des politischen Systems der Bundesrepublik Deutschland vertraut machen.		
講義概要	Nach Vorgabe einiger relevanter geografischer Daten und grundlegender politischer Begriffe wird das politische System der Bundesrepublik Deutschland von seiner Entstehung über seinen Aufbau bis zu seiner Funktion behandelt. Die Verfassung, die staatlichen Organe sowie die staatliche Grundordnung kommen dabei ebenso zur Sprache wie der Föderalismus, die Parteien und das Wahlsystem.		
使用教材	テキスト	Vervielfältigte Kopien werden während des Semesters ausgeteilt	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> a) Bundeszentrale für politische Bildung (Hrsg.) : Informationen zur politischen Bildung b) K. Sontheimer : Grundzüge des politischen Systems der BRD c) K. v. Beyme : Das politische System der BRD nach der Vereinigung d) Botschaft der BRD : Tatsachen über Deutschland 	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> a) regelmäßige Teilnahme am Unterricht b) zwei Semesterabschlußtests 	
受講者に対する要望など			

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	Politische Geografie der BRD : Bundesländer, Landeshauptstädte
2	Geografische Lage der BRD in Europa : Nachbartländer und deren Hauptstädte
3	Sprachfamilien in Europa ; Statistikvergleich Deutschland-Japan
4	Politische Begriffe : Staat-Nation-Volk
5	Politische Systeme, Staatsformen : Monarchie-Republik, Parlamentarismus, Totalitarismus etc.
6	Historischer Überblick über deutsche Einheitsbestrebungen bis zur Gegenwart
7	Verfassungen : Entstehung-Sinn-Funktion des Grundgesetzes
8	Grundrechte, Bürgerrechte, Gewaltenteilung
9	Regierungssystem der BRD : Verfassungsorgane vom Staatsoberhaupt bis zu den Länderparlamenten
10	Staatsorgane : Organisation, Aufgaben, Funktion (Staatsoberhaupt, Bundestag, Bundesregierung, Bundesverfassungsgericht)
11	Funktion und Aufgaben der Staatsorgane : Bundesversammlung, Bundesrat, Länderparlamente, Länderregierungen
12	Abschlußgespräche / Zusammenfassung des I. Semesters; Fragestunde, Wiederholung, Prüfungsvorbereitung
備考	

後期

週	主要テーマ
1	Besprechung der Testergebnisse des 1. Semesters, Vorstellung des Unterrichtsprogramms des 2. Semesters
2	Staatliche Grundordnung der BRD : Republik-parlamentarische Demokratie
3	Föderalismus der BRD (Bundesstaat) : historischer Überblick, Funktion, Vor- und Nachteile
4	Gesetzgebungszuständigkeiten des Bundes und der Bundesländer
5	Rechtsstaat / Sozialstaat : verfassungsrechtliche Bedeutung und Bezug zum Staatsbürger
6	Parteiensystem der BRD : historischer Überblick, politische Orientierung, Fraktionen im Bundestag
7	Wahlrecht und Wahlsystem der BRD I : Mehrheits- und Verhältniswahl
8	Wahlrecht und Wahlsystem der BRD II : Auflösung des Bundestages, konstruktives Mißtrauensvotum, Grundmandatsklausel, Überhangmandate
9	Gesetzgebungsverfahren der BRD
10	Die Besetzung und Teilung Deutschlands und seine Einigung
11	Deutschland und die EU ; Deutschland und die Vereinten Nationen
12	Abschlußgespräch, Zusammenfassung des 2. Semesters, Fragestunde, Wiederholung, Prüfungsvorbereitung
備考	

科 目 名	ドイツの地誌・民俗 1 ドイツの地誌（旧）	担当者名	川 野 謙
-------	--------------------------	------	-------

講義の目標	ドイツ語圏の自然環境について学ぶとともに、そこで営まれる人々の生活活動が、その環境といかにかかわりあっているかを理解する。またその状況が我々日本人の自然環境・生活活動とどのように異なっているかを考える。				
講義概要	ドイツを中心とする中部ヨーロッパの自然条件、とりわけ地形がいかにして出来上がったかを中心にして述べる。その上でその自然環境を基盤とし、その地域の人々がどのような生活を行い、いかなる特色を生み出しているかを考察する。講義内容を具体的に理解するために、適宜プリントを配布し説明する。				
使用教材	テキスト				
	参考文献	授業時間中に隨時提示する。			
評価方法	評価は9月末日提出のリポートと学年末の筆記試験によって決定する。なお前期リポートを提出しない者、および欠席が著しく多い者（毎時間出席をとる）の学年末試験の受験は認めない。				
受講者に対する要望など					

前期

年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明
2	地誌とは。地理的知識の集積からその体系化へ。
3	人類の生活空間の拡大と地図の変遷。さまざまな地図とそれに盛られた情報。
4	ヨーロッパ及びドイツ語圏諸国の位置・範囲・規模。一日本との比較において一
5	ヨーロッパの自然環境。海洋と陸地。半島としての特色。
6	ヨーロッパの気候、ことに中部ヨーロッパの気候の特色とその生活への影響。
7	ヨーロッパ、ことに中部ヨーロッパの地形区分。
8	ヨーロッパ北西高地とスカンジナビア氷床。
9	氷河期、氷蝕作用、模式的な氷河地形について。
10	北ドイツの海岸地形。NordseeとOstseeの特色。
11	北ドイツ低地。その① 氷河に覆われた地域。Moräneの列。原流谷。
12	北ドイツ低地。その② 海からつくられた地域。Wattenmeero Marsch。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	北ドイツ低地。その③ Geest。Moor。
2	北ドイツ低地。その④ 耕倉地帯としてのBörde。
3	中央高地 (Mittelgebirge) の成立と、そこにおける人間活動。
4	中央高地。その② 寸断された地塊。Horst。Graben。
5	中央高地。その③ 火山活動。
6	アルプス山地。第三紀の褶曲運動。スイス・オーストリアの人々の生活。
7	ドイツアルプスとその景観。
8	ドイツの河川の概要。ライン川とその流域。
9	ドイツのその他の河川。ドナウ、エルベ、ヴェーザー川とその流域。
10	ドイツ (語圏諸国) の行政区画。ドイツのalte Länderとneue Länder。
11	ドイツの産業概要。
12	ドイツを中心とした中部ヨーロッパの人々の生活のまとめ。
備考	

科 目 名	ドイツの地誌・民俗 2 ドイツの民俗（旧）	担当者名	杉 山 好
-------	--------------------------	------	-------

講義の目標	ドイツのクリスマス行事と、特にクリスマスにちんだ音楽について、民俗学的、宗教史的、社会学・人間学的視点から考察する。なお、民俗学の対象は、人間の全体にかかわり、また社会や天然との人間学的なかかわりなど、極めて多岐にわたる人間生活の現実であるため、その活きた、時に泥くさい実態に即するための「脱線」や比較考証などを必要とする。したがって講義の展開は必ずしも以下のプラン通りには行かない場合があることを、予め御諒承いただきたい。				
講義概要	バッハの『クリスマス・オラトリオ』の後半（第4～第6）の歌詞台本とその音楽を分析しながら、クリスマスのできごとのもつ民俗的・思想的射程を探ってゆきたい。その際、出現する重要な事象のひとつひとつをめぐって、民謡などもあわせて取り上げて民俗的背景へのアプローチをも試みる。				
使用教材	テキスト	杉山訳『クリスマス・オラトリオ歌詞対訳』（プリント作成）			
	参考文献	W. ディーナー『ドイツ民俗学入門』（川端豊彦訳・弘文堂） 谷口幸男ほか著『図説 ドイツ民俗学小辞典』（同学社） B. バルトス＝ヘップナー著『クリスマスの思い出』（ロコバント・靖子訳・新教出版社）			
評価方法	前期はリポート（自由主題と指定課題による）。後期は通常形式のテスト。				
受講者に対する要望など	資料を必要に応じてその都度配布するので、きちんと出席すること。あとは、ゼミに準じた主体的参加を望む。				

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	ドイツの民俗とは、どういう学問であるか、内容、方法論、学問の歴史についての入門的概説。
2	日本におけるドイツ研究の問題点を、民俗学の立場から考察。つづいて、クリスマス行事の民俗的意味とその歴史的由来、変遷。
3	バッハの『クリスマス・オラトリオ』のクリスマス行事における民俗的位置づけ。その成立や歌詞台本の問題。
4	『クリスマス・オラトリオ』の前半部と後半部の概観。
5	そして後半部（第4～第6部）の歌詞台本の分析を開始、以下
6	第4部の歌詞と音楽の対応を追いながら、音楽演奏をテープで聴く。 第4部前半の分析と考察。
7	第4部後半の分析と考察。
8	第5部前半の分析と考察。
9	第5部後半の分析と考察。
10	第6部前半の分析と考察。
11	第6部後半の分析と考察。
12	『クリスマス・オラトリオ』（第4～6部）を通して聴きながら、その宗教・社会・政治民俗学的意味を考察。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	後期はルカとマタイの両福音書にあるキリスト生誕記事にもとづいて、場面ごとに、民俗行事や民謡をとり上げる予定。
2	「天使の告知と神賛美」の場面。
3	「天使と羊飼いの対話」
4	「羊飼いたちの応答と動き」
5	「ベツレヘムの家畜小屋」の場面。
6	「母マリヤの内省と羊飼いの賛美」。クリスマスが「喜びの祝祭」であることの意味。
7	以上をふまえて、バッハの『クリスマス・オラトリオ』前半（第1～第3部）を通して聴く。
8	「天使の告知と神賛美」の音楽と民謡。
9	「天使と羊飼いの対話」の民謡。
10	「羊飼いたちの音楽」（クリスマス・パストラーレ）の音楽と民謡。
11	「幼な児イエス」をめぐる民謡。
12	結びとして、H. シュット（1585～1672）の『クリスマスのヒストリア』を聴く。
備考	

科 目 名	ドイツの政治・対外関係 ドイツの政治(旧)	担当者名	深 谷 満 雄
-------	--------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	第二次大戦後ドイツのおかれた国際的地位および、その内政的発展について基本的理解を与える。			
講 義 概 要	戦後ドイツが東西に分割されるまでの過程と、統一後のドイツの政治的発展および国際的地位について述べ、今後の展望を試みる。			
使 用 教 材	テキスト			
	参考文献	1 『ドイツ・ベルリン問題の研究』、日本国際問題研究所、1963年 2 H. K. ルップ著、深谷訳『現代ドイツ政治史』、有斐閣、1986年		
評 価 方 法	原則として学年末に行う論文形式の筆記試験による。			
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど				

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	一年間の講義概要と授業方針について説明する。
2	連合4カ国（米、英、ソ、仏）による占領体制が確立した経緯の枠内で、戦時中のドイツ解体構想を問題にする。
3	同じく、ヤルタ会談での討議と決定を扱う。
4	同じく、占領に関するヨーロッパ諮詢委員会（E A C）での諸取決めを扱う。
5	同じく、ドイツ降伏から実際に協定に基づく占領が行われるまでの経緯を扱う。
6	占領のための基本原則を確定したポツダム協定について論ずる。
7	第6週と同じ。
8	占領下での政党活動の開始を扱い、S P D（社会民主党）やK P D（共産党）の綱領に説明を加える。
9	第8週と同じ。
10	4カ国による共同管理が破綻した原因について考察する。
11	第10週と同じ。
12	レポートの課題、提出期限等について説明する。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	ソ連占領地帯におけるS E D（社会主義統一党）の成立について述べる。
2	ソ連占領地帯における「反ファシズム民主主義的変革」を扱う。
3	西側占領地帯における経済的社会的再編の問題を扱う。
4	「戦後変革」との関連でドイツ連邦共和国（＝「西ドイツ」）の成立過程を検討する。
5	第4週と同じ。
6	ドイツ民主共和国（＝「東ドイツ」）の成立について述べる。
7	第一回連邦議会選挙の結果とアデナウアー政権の成立について述べる。
8	ドイツ連邦共和国成立当初の諸政党の歴史、性格、その後の発展について概観する。
9	第8週と同じ。
10	東西ドイツの「主権回復」過程およびその後の発展を問題にする。
11	ドイツの再統一について述べ、今後のドイツの国際的地位について展望する。
12	一年間の授業についての「まとめ」を行い、定期試験に関し、出題方針を明らかにする。
備考	

科 目 名	ドイツの経済 ドイツの経済（旧）	担当者名	大島通義
-------	---------------------	------	------

講義の目標	ドイツは、第二次世界大戦に敗れたのち東西に分断され、西側では連邦共和国として、東側では民主共和国として戦後の歩みを始めた。両ドイツが統一を成し遂げたのは、1989年にベルリンの壁が崩壊した後のことである。西独はその間急速な経済発展を遂げて、ヨーロッパにおける経済統合の中心的な位置を占めるようになった。他方、東独は旧ソ連圏のなかでは「優等生」といわれる立場にあったが、統合によって西独との経済力の格差が明白となり、この格差の克服が統一後のドイツの経済運営の最大の課題となっている。このようなドイツの戦後史を踏まえて、その経済の現状を概観することを試みる。				
講義概要	この講義においては、第二次世界大戦後の発展を視野にいれながら、最近20年ほどのあいだのドイツ経済に焦点を合わせてその概観を試みる。前期には、主として戦後のドイツ経済の発展を時間の流れにしたがって概説し、後期には、経済の各分野についてその現状と問題を明らかにすることとする。詳細は、のちに掲げるとおりである。				
使用教材	テキスト	テキストは特に定めない。			
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・大西健夫編『ドイツの経済』早稲田大学出版部、1992年。 ・戸原四郎・加藤栄一編『現代のドイツ経済 統一への経済過程』有斐閣、1992年。 			
評価方法	前・後期末に筆記試験をおこなう。ただし、履修者が少ないと場合は、別の方法をとることもありうる。				
受講者に対する要望など	経済学の物の見方についての予備知識を求めることはしないが、経済学の方法で考えることをいとわない学生諸君の参加を期待する。				

前期

年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	年間の講義予定・ドイツ経済の特色
2	最近一世紀におけるドイツ経済の発展
3	西ドイツの主要経済指標——日本との比較
4	経済体制としての社会的市場経済
5	戦後ドイツの政治と社会
6	戦後復興期の経済
7	高度成長期の経済
8	低成長期の経済
9	旧東独の経済体制
10	東西ドイツの経済関係
11	ドイツ経済の統合
12	統合後のドイツ経済
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	産業と企業の構成
2	技術と経済
3	労働経済——労働市場
4	同上——労働組織と労働政策
5	財政制度——連邦主義的構成
6	同上——社会保障財政
7	金融制度——銀行と産業
8	同上——中央銀行政策
9	ドイツ経済の地域的構成
10	ドイツ経済の対外関係
11	ドイツ経済と欧州経済統合
12	日本とドイツの経済関係
備考	

科目名	ドイツの法律 ドイツの法律(旧)	担当者名	中山幸二
-----	---------------------	------	------

講義の目標	本講義は、ドイツ法との比較を通して、日本法の特殊性と問題点を逆照射し、ドイツ法の理解とともに、日本法の理解をより深めることを目的とする。				
講義概要	ドイツ法の歴史的沿革を概観したのち、各法分野および司法制度の基本的原則と特徴を日本法との対比のもとに検討する。				
使用教材	テキスト	・村上・マルチュケ著『ドイツ法入門』有斐閣			
	参考文献	そのつど指示する。			
評価方法	レポート提出による。				
受講者に対する要望など	講義は日本語で行うので、ドイツ語の知識を必ずしも要しない。				

年間講義予定

前期

週	主　要　テ　ー　マ
1	本講義の目標と予定を説明する。
2	ドイツ法の歴史概説（中世・近世・近代）。ローマ法の継承と普通法。
3	ナチス期のドイツ法と戦後のドイツ（国家の分裂と再統一）。
4	ヴァイマル憲法とボン基本法。基本権。
5	連邦主義と国家機関。連邦と州の役割分担。
6	裁判所制度
7	法曹養成制度
8	民法の特徴
9	債権法
10	物権法
11	家族法
12	商法の特徴
備考	

後期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期の復習。
2	刑法(1)
3	刑法(2)
4	民事訴訟法(1)
5	民事訴訟法(2)
6	労働法(1)
7	労働法(2)
8	ドイツ法学が日本法に与えた影響(1)
9	ドイツ法学が日本法に与えた影響(2)
10	ドイツ法学が日本法に与えた影響(3)
11	EC(EU)法の発展とドイツ法。
12	まとめ
備考	

科 目 名	ドイツ語講読 I -1 (旧)	担当者名	大 串 紀代子
-------	-----------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>1 ドイツ語習得度をより高める。</p> <p>2 出来る限り多くの文章に触れる。</p> <p>3 ドイツ語の音読、朗読の練習を行う。</p> <p>4 文学作品を通じて、文化理解を深める。</p>				
講 義 概 要	<p>「音読を数度行う、読解する。文法事項を理解する。内容を理解する。作品を分析する。他の作品及び時代背景に触れる」</p> <p>以上の事柄を出来るだけ行う。一時間内に一つの作品を扱い、中世説話から現代作家まで、文学史的に意味の高いものを順次採り上げる。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td><td>E・Rucker+内藤克彦編 ; <i>Deutsche Literatur—Ein Lesebuch—</i>, (名作を通して学ぶドイツ語) 第三書房</td></tr> <tr> <td>参考文献</td><td>・ドイツ文学史、ドイツ文化史関連書。</td></tr> </table>	テキスト	E・Rucker+内藤克彦編 ; <i>Deutsche Literatur—Ein Lesebuch—</i> , (名作を通して学ぶドイツ語) 第三書房	参考文献	・ドイツ文学史、ドイツ文化史関連書。
テキスト	E・Rucker+内藤克彦編 ; <i>Deutsche Literatur—Ein Lesebuch—</i> , (名作を通して学ぶドイツ語) 第三書房				
参考文献	・ドイツ文学史、ドイツ文化史関連書。				
評 価 方 法	各学期末に記述式テストを行う。				
受講者に対する要望など	十分に予習をしていることが絶対必要条件。欠席が多い場合は、期末評価を与えない。追試も行わない。				

科 目 名	ドイツ語講読 I—2 (旧)	担当者名	川 野 謙
-------	----------------	------	-------

講 義 の 目 標	ドイツの Gymnasium の地理の教科書を読みます。ドイツの国土の実態を知るとともに、大陸国のドイツと島国の日本との違いも考えてみたいと思います。				
講 義 概 要	毎時学生諸君に訳読してもらいます。文章は平易ですが、かなり術語もまざっているので予習が必要です。				
使 用 教 材	テ キ ス ト	プリントして配布			
	参 考 文 献				
評 価 方 法	毎時出席をとり訳読などによる日常点とともに、期末の定期試験の成績により評価する。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど					

科 目 名	ドイツ語講読 I - 3 (旧)	担当者名	木内基実 (前期) 中山康子 (後期)
-------	------------------	------	------------------------

前 期

講義の目標	ドイツ語話法の助動詞の本質を知り、応用を学ぶ。				
講義概要	話法の助動詞の基本的意味・表現の実際をドイツ語によるテクストを読んで知り、豊富な練習問題によって使い方を知って貰う。しかし、あくまでも基礎知識の範囲内であり、かつ、抽象論ではない。				
使用教材	テキスト	Modalverben : Theorie und Praxis.			
	参考文献	ナシ			
評価方法	定期試験による。				
受講者に対する要望など	ナシ。				

後 期

講義の目標	後期はビデオを使って現代ドイツの一端を探る。いくつかの話題を集めたビデオを見ながら、聞き取りの力も身につけるようにする。				
講義概要	1993年版のDeutschlandspeigelを用いるが、まずビデオを見てその内容について話し合い、のちにビデオを見て確認する。				
使用教材	テキスト	Deutschlandspeigel 1993 (4~8月) プリント			
	参考文献	ドイツ現代史に関するもの。			
評価方法	出席数と後期試験の結果。				
受講者に対する要望など	連続して欠席しないこと。				

科 目 名	ドイツ語講読 I - 4 (旧)	担当者名	関 徹 雄
-------	------------------	------	-------

講 義 の 目 標	
講 義 概 要	訳読を中心として、一、二年次で履修したドイツ語文法の復習の意味で、反復、練習を行うが、使用テクストはドイツの現代事情ないしは、ドイツの精神文化を対象としたものとする。
使 用 教 材	<p>テキスト Hesse, Hermann 高橋健二編『若い芸術家への手紙』 <i>An einen jungen Künstler</i>, 郁文堂刊行 600円</p> <p>参考文献</p>
評 価 方 法	
受 講 者 に 對 す	る要望など

科 目 名	ドイツ語講読 I -5 (旧)	担当者名	船 戸 満 之
-------	-----------------	------	---------

講 義 の 目 標	現代史についての基本的語彙をかく得するための平明なテキストを読む。初步的な文法事項を再確認するために、テキストからは独立した練習問題を課す。サンプルは最初の授業の際に提示する。				
講 義 概 要					
使 用 教 材	テ キ ス ト	『ヨーロッパの歴史 1945—1990 (独語版)』 第三書房			
	参 考 文 献				
評 価 方 法	授業時間中の訳読。前後期末テスト。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど					

科 目 名	ドイツ語講読 I - 6 (旧)	担当者名	本 多 喜三郎
-------	------------------	------	---------

講 義 の 目 標	テキストを精読することにより「白いばら」抵抗運動に関する知識の獲得のみならず、受講者の文法知識の定着と読解力の涵養を目指す。
講 義 概 要	テキストは Scholl 兄妹たちが処刑されてから 50 年が経過した 1993 年 2 月 15 日に、それを記念する催しに際して、Richard von Weizsäcker ドイツ大統領が München 大学で行った演説である。 授業の進行は、出席番号順での輪読となるが、すべての受講者に毎回の充分な下調べが義務づけられる。
使 用 教 材	テキスト Richard von Weizsäcker ; <i>Die freiheitliche Demokratie bedarf der Verantwortung und Solidarität ihrer Bürger</i> 参考文献 『ミュンヘンの白いばら』、山下公子、筑摩書房
評 価 方 法	前・後期 2 回の筆記試験と授業への参加状況で評価する。
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	欠席ぐせをつけないようにして欲しい。また教室で教師の訳文の筆記に専念するような学習態度は望ましくない。

科 目 名	ドイツ語講読I-7(旧)	担当者名	矢羽々 崇
-------	--------------	------	-------

講 義 の 目 標					
講 義 概 要	昔の世界地図を見ると、世界の果てには巨人や3つ目の人間などがいました。技術の発展などによって、世界の表面的には「正しく」認識され、怪物のすむ場もなくなったようです。しかし、それと同時に、「ユートピア」も地図の上からすがたを消してしまいました。このような近代（啓蒙）の問題や矛盾を、テキストの中の地図に関する章を読みながら考えたいと思います。				
使 用 教 材	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">テ キ ス ト</td><td style="padding: 2px;">Engelhard Weigl ; <i>Instrumente der Neuzeit</i> (コピー配布)</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">参 考 文 献</td><td style="padding: 2px;"></td></tr> </table>	テ キ ス ト	Engelhard Weigl ; <i>Instrumente der Neuzeit</i> (コピー配布)	参 考 文 献	
テ キ ス ト	Engelhard Weigl ; <i>Instrumente der Neuzeit</i> (コピー配布)				
参 考 文 献					
評 価 方 法	各学期末に、テストまたはレポートを行って評価します。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど					

科 目 名	ドイツ語講読 I -8 (旧)	担当者名	山路 朝彦
-------	-----------------	------	-------

講義の目標	これまでに身につけた基礎語学力をさらに強化し、読む・聞く・話す・書く力をバランス良く、ともに伸ばして行きたい。				
講義概要	ドイツを代表する現代作家であるH. M. エンツェンスベルガーが、ドイツ語を学ぶ初学者のために書き下し、ドイツでも評判となっている教科書を使う。いまだ第一部が完成したのみであるが、あえて取り組んでみたい。ザザという名の女の謎を追い求めながら、登場人物とともにスリリングな展開を楽しみたい。速読のテクニック (Lesestrategie) の修得と、カセットを聞きながら、そのスピードに合せて内容を聞きとる練習を行う。後期には別のテクストを使う。				
使用教材	テキスト	H. M. Enzensberger ; <i>Die Suche 1</i> , (Langenscheidt) (プリントで配布)			
	参考文献				
評価方法	出席・前期試験・後期試験				
受講者に対する要望など					

科 目 名	ドイツ語講読 I - 9 (旧)	担当者名	渡 部 重 美
-------	------------------	------	---------

講 義 の 目 標	現代ドイツを考える上で重要な15のテーマを取り上げた下記テキストを読みながら、1・2年生の時に習ったドイツ語の知識を整理し、読解力を身につけることを目標とする。				
講 義 概 要	具体的に説明するために第8課を例にとってみよう。この課のテーマは、外国人問題 (Die Ausländer) である。授業の進め方としては、まずこのテーマについて書かれた40行程度のドイツ語テキスト (Lesetext) を読み、テキストに関する質問 (Fragen zum Lesetext) に答えながら内容の理解を深める。次に、練習問題 (Übungen) によってテキストに使われている重要な単語や表現を反復練習した後、同じテーマを扱った別のテキスト (この8課では Dialog) に応用してみる、といった具合である。2回の授業で1課 (= 1つのテーマ) を扱う予定であり、その範囲内で可能ならば、テーマに関連する資料をさらにコピーで配布し読んで頂くこともある。				
使 用 教 材	テ キ ス ト	J. Berndt u. a. ; <i>Auf der Suche nach Deutschland</i> , 三修社, 1995. (¥2,300). さらに、必要があればコピーを配布する。			
	参 考 文 献	必要に応じて、その都度指示する。			
評 価 方 法	前期と後期の終わりにおこなう年2回のテストと授業への貢献度 (予習の有無、発表回数等) によって評価する。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	受講希望者は、なるべく1回目の授業から出席すること。				

科 目 名	ドイツ語講読Ⅱ-1(旧)	担当者名	片 岡 啓 治
-------	--------------	------	---------

講 義 の 目 標	ドイツ人ジャーナリストの目をとおしてみた日本社会の性格を理解するために。				
講 義 概 要	テキストの内容は、1) 言語、2) 恥の文化、3) 日本の美術、の3部からなる。原典をよみながら、適宜、説明を加える。				
使 用 教 材	テ キ ス ト	G. ダンプマン『異国ニッポン』白水社刊			
	参 考 文 献				
評 価 方 法	前・後期定期試験。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	必要な説明を注意してきくこと。				

科 目 名	ドイツ語講読Ⅱ-2(旧)	担当者名	金 井 満
-------	--------------	------	-------

講義の目標	この講義の目標は、過去3年間のドイツ語学習の集大成として一文、一文の意味を正確にとらえることのみならず、テキスト全体として内容を理解することにある。ドイツ語をただ日本語に置き換えるのではなく、著者の主張したいことが第三者にわかるような日本語にすること、さらにその内容が自分なりに説明ができ、それに対する自分の考え方などがのべられるようなドイツ語力を身につけることを目標としたい。			
講義概要	<p>テキスト全体の内容を正確に理解することが目標であるので、参加者にはある程度まとまった分量を担当してもらい、その日本語訳ならびに解説をしてもらうつもりである。その後、参加者全員で文法的な問題から各人の意見まで内容全般に渡って討議する。</p> <p>テキストはあまり長いものではないが、各人が身近に感じられるような内容のものを選ぶ。ただ与えられた範囲を終えればそれでおしまいという考え方をせずに、学生主体となるよう授業を進めていきたい。</p>			
使用教材	テキスト	<p><i>Was ist Glück?</i> dtv 1134 あるいは <i>Carl Firedrich von Weizsäcker ; Der bedrohte Friede</i>, dtv 10182</p>		
参考文献				
評価方法	評価は、前期レポートと後期試験、授業への参加度によって決定する。レポートの提出日は追って指示する。			
受講者に対する要望など	4年生ということで就職活動等で授業に参加できない場合もあるだろうが、自らの意志で積極的に参加し、授業中に一言も発すことなく終わるようなことがないよう努めてほしい。			

科 目 名	ドイツ語講読Ⅱ-3(旧)	担当者名	亀 谷 敬 昭
-------	--------------	------	---------

講 義 の 目 標	ヘルマン・ヘッセはわが国でもっとも著名なドイツの作家である。彼の作品は長年わが国で多くの愛読者を持っているが、第2次大戦後の60年代にアメリカで爆発的なヘッセブームが起きた。本書はそのような背景の下で、アメリカのプリンストン大学の比較文学教授のラルフ・フリートマンによって書かれたヘッセの伝記のドイツ訳である。ヘッセの生涯のうち作家として世に出るまでの頃をコピーとして教材とし、ヘッセの作品の現代的意義を考える一つの機会を作りたい。		
講 義 概 要			
使 用 教 材	テ キ ス ト	Ralph Freedman ; <i>Hermann Hesse Autor der Krisis</i>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	前期および後期の定期試験による他、平常点も重視する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	ドイツ語講読Ⅱ-4 (旧)	担当者名	洲 崎 恵 三
-------	---------------	------	---------

講 義 の 目 標	ドイツ語読解力を養成しながら、ゲーテの生涯と作品をふかんする。テキストはローベルト・シンチンガー先生が日本的学生向けに平明なドイツ語で書き下ろした教科書を使用。毎回学生諸君には自ら手をあげて読みかつ訳してもらう。楽しい授業にしたい。				
講 義 概 要	一日数ページずつ多読し、速読力、読解力をつける。日頃手をあげ、やることが肝要。あわせて、ゲーテという人と作品を勉強する。できれば、原典にもあたるきっかけとしたい。				
使 用 教 材	テキスト	ローベルト・シンチンガー著『ゲーテ』(ドイツ文豪物語シリーズ) 第三書房			
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーテ全集(潮出版等) ・ゲーテ研究書一般。 			
評 価 方 法	日ごろの和訳速習を最も重んずる。テストは、速読力、読解力をみる。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	就職活動、卒論等で忙しいだろうが、なるべく出席して、自ら手をあげて、なるべく多くやる積極性が欲しい。				

科 目 名	ドイツ語講読Ⅱ—5（旧）	担当者名	鳥 海 金 郎
-------	--------------	------	---------

講 義 の 目 標	① 独文和訳の養成 ② オーストリア常識の養成
講 義 概 要	① 今までに得たドイツ語に関する基礎知識を一層確実なものとするために、文法的に正確に理解することを第一の目標としますが、合わせて読むスピードを上げることにも留意します。 ② オーストリアは、現在は面積8万km ² 、人口780万にすぎませんが、第一次世界大戦終了時までは、その数倍の面積、人口を有し、ドイツ人、ハンガリー人、チェコ人など数多くの民族から構成された多民族国家でした。その長い歴史と伝統に光をあて、さらに今日現在のオーストリアを知ってもらうことがこの授業の狙いです。 「オーストリア」 "Austria, Österreich" であって、「オーストラリア」 "Australia, Australien" ではありませんので念のため。
使 用 教 材	テキスト Wally P.; 11. Semester, gibt Auskunft, (プリント：授業中配布) B. Wiegele / 神竹道士編著 ; Kennen Sie Österreich? 『オーストリアってどんな国?』 朝日出版社 (書店販売)
参 考 文 献	授業中に、参考文献一覧を配布します。
評 価 方 法	年間数回の実施を予定している独文和訳試験の成績を主とし、隨時提出を求めるレポート・原書翻訳を参考に判定します。
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	特に、オーストリアの社会、文化に関心のある学生のみを対象としていること、また試験やレポートなどの提出によって、自宅学習が忙しくなることを十分承知のうえ受講してください。

科 目 名	ドイツ語講読Ⅱ-6(旧)	担当者名	中島 悠爾
-------	--------------	------	-------

講義の目標	文法的に正確に読む力を一層養うことを第一の目標とする。				
講義概要	正確な発音・文法的に正確な熟読を第一義とするが、同時にその文章の持つニュアンスも正しく汲み取れるよう、ただ単にドイツ語を日本語に訳すだけでなく、語の位相などにも注意して行く。				
使用教材	テキスト	未定。			
	参考文献				
評価方法	授業への参加度、前後期各1回のテストによる。				
受講者に対する要望など					

科 目 名	ドイツ語講読Ⅱ-7(旧)	担当者名	本多喜三郎(前期) 林部 圭一(後期)
-------	--------------	------	------------------------

前 期

講義の目標	ナチス支配を逃れてオランダに住んだドイツ系ユダヤ人としてはアンネ・フランク一家の話が有名であるが、それ以外の人たちの運命についてはあまり知られていない。それらの人々の悲惨な体験の一部を本テキストで読んでみたい。		
講義概要	授業は出席番号順での輪読で講読の進度は1日4~5ページ。テキストは前期で読了の予定。		
使用教材	テキスト	Volker Jakob ; Anne Frank war nicht allein	参考文献
評価方法	前期テストの結果と授業への出席状況によって評価する。		
受講者に対する要望など	授業回数の2/3以上出席していない者には再試の機会を与えない。 なお、前期テストの追試は行わない。		

後 期

講義の目標	ドイツ語の文章を読んで内容を把握する。		
講義概要	歴史の本を読もうかと思うが、前期の教材との関連を考えて、後期の最初の授業で決めることにしたい。		
使用教材	テキスト		参考文献
評価方法			
受講者に対する要望など			

科 目 名	ドイツ語講読Ⅱ-8 (旧)	担当者名	前田和美
-------	---------------	------	------

講義の目標	知的内容をもつ標準的なドイツ語の散文を正確に読み取ることを目的とします。				
講義概要	教材は何人かの現代ドイツの知識人が書いた日本に関する論評を集めたもの。筆者たちの職業も多様、テーマ、スタイルも多様で、現在の知的散文のおおよその感触が得られると思います。(あまり難しいテキストだと考えないでください。)				
使用教材	テキスト	ヴァルザー他著; <i>Japanische Eindrücke</i> , 『ドイツ人の見た日本』白水社発行			
	参考文献				
評価方法	前後期試験と授業への参加度によって決定。				
受講者に対する要望など	授業に対する積極的な態度を期待。				

科 目 名	ドイツ語講読Ⅱ－9（旧）	担当者名	山 本 淳
-------	--------------	------	-------

講 義 の 目 標	ブレヒト（／ヴァイル）の名を世界的なものにした社会風刺的音楽劇『三文オペラ』（1928年初演）を読み（+聴き、観て）、合わせて作品成立の諸背景やブレヒトの演劇論について考えることで、この作品のアクチュアリティを探る。				
講 義 概 要	<p>テクストを読むのに先立ち、ブレヒトおよび彼の演劇観について、また1920年代ドイツの政治的・社会的・文化的状況について概略的に学ぶ。</p> <p>テクストは、全体的な流れがわかるようカヴァーしながら、興味深い場面やソングをピックアップして読み進んでいく。ソングについては、実際に唄われているものを同時に聴いていく。さらに映画化された『三文オペラ』を観て原作との比較を試みる。</p> <p>最後に、討論によりこの作品のアクチュアリティを検討する。</p>				
使 用 教 材	テキスト	BRECHT, Bertolt ; <i>Die Dreigroschenoper</i> , (Suhrkamp) プリントで配布			
	参考文献	岩淵達治『《三文オペラ》を読む』(岩波セミナーブックス 44)			
評 価 方 法	評価は、前・後期末各1回の筆記試験（独文和訳+授業内容に関する記述問題）と授業への参加度により決定する。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど					

科 目 名	ドイツ語講読Ⅱ-10(旧)	担当者名	渡 辺 学
-------	---------------	------	-------

講義の目標	前世紀前半に書かれた言語思想家の文章に接することで、複雑な構文を含む文章語に慣れ、ドイツ語の読み解き力・語彙力を鍛えながら、自ら考えるチャンスを提供したい。				
講義概要	<p>統一ドイツの首都として一躍脚光を浴びているベルリン。18~19世紀にこの町で、あるいはパリ、ローマで政治家・教育学者・文芸評論家として活躍し、ベルリン大学の創設者ともなったフンボルトの最晩年の作にして、かれが「ドイツのソシュール」と呼ばれる際の主たる典拠となった下記の言語論を読む。言語と民族（国民性）の係わりが中心テーマである。</p> <p>文章は決して平易ではないので、一語一句をていねいに読み、当時の時代背景やフンボルトの思想について隨時解説を加える。ドイツ精神、（言語）哲学、ドイツ語学、文化人類学、歴史学などに关心のある諸君に向いている。</p>				
使用教材	テキスト	<p>Wilhelm von Humboldt ; <i>Sprache und Geist der Völker</i> (民族の言語と精神 I) 同学社</p>			
	参考文献	<p>亀山健吉『フンボルト』 中央公論社（中公新書） 1978 泉井久之助『言語研究とフンボルト』 弘文堂 1976 その他、追って指示する。</p>			
評価方法	前期テスト（またはレポート）、学年末レポート、および、授業時の貢献度による。				
受講者に対する要望など	日頃から「考える習慣」をつけておくこと。予習を徹底的にしてほしい。				

科 目 名	独作文1(旧)	担当者名	M. 鮎 貝
-------	---------	------	--------

講義の目標	LERNZIELE : Ausbau der schriftlichen Ausdrucksfähigkeit und Wortschatzerweiterung durch gemeinsame Erarbeitung verschiedenartiger Texte und durch Anleitung zu eigenen Aufsätzen.				
講義概要	Wir beginnen mit der Bildbeschreibung, der die Bildinterpretation folgt. Der nächste Schritt ist das Verfassen von Bildgeschichten zu einer Bilderfolge. Anschließend soll die Nacherzählung mit Hilfe von Tonbandaufnahmen geübt werden. Es folgen die Erlebnisschilderung und anhand schriftlicher Beispiele verschiedene Aufsatzformen wie Stimmungsbild, Sachbericht, Erörterung von Problemen.				
使用教材	テキスト	KOPIEN			
	参考文献	Wesentlich ist dabei die Gliederung, die für jede Aufsatzform gilt. Die Studenten schreiben, entsprechend der gemeinsamen Vorbesprechung, jede Woche einen Aufsatz, als Hausaufgabe.			
評価方法	Diese Aufsätze sind zugleich die Grundlage für die Beurteilung am Ende des akademischen Jahres.				
受講者に対する要望など					

科 目 名	独作文 2 (旧)	担当者名	K. O. Beißwenger
-------	-----------	------	------------------

講 義 の 目 標	Im Kurs sollen verschiedene Formen der schriftlichen Ausdrucksweise geübt werden.		
講 義 概 要	Jede schriftliche Form - sei es der Bericht, die Beschreibung, die Erzählung, der Problemaufsatz etc. - folgt allgemeingültigen Aufbauregeln, die im Kurs vorgestellt werden. Neben der formalen Gestaltung wird auch Gewicht auf die Methodik wie Stoffsammlung und -ordnung gelegt. Ferner soll die schriftliche Ausdrucksfähigkeit der Teilnehmer geschult werden. Unter den Textsorten, die im Kurs geübt werden, befinden sich für den täglichen Bedarf relevante Formen wie Bewerbung, Lebenslauf, Brief.		
使 用 教 材	テキスト	Kopien	
	参考文献		
評 価 方 法	Zahlreiche, während des Semesters zu schreibende Aufsätze bilden die Grundlage für die Notenvergabe am Jahresende.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Regelmäßige, aktive Teilnahme!		

科 目 名	独作文 3 (旧)	担当者名	B. Ebert
-------	-----------	------	----------

講 義 の 目 標	In dieser Lehrveranstaltung sollen, ausgehend vom einfachen deutschen Satz, verschiedene Textsorten vorgestellt, analysiert und bearbeitet werden. Die Studenten sollen in der Lage sein, selbständig verschiedene Textsorten produzieren zu können.				
講 義 概 要	In jeder Unterrichtseinheit werden wir einen Mustertext besprechen. Anhand dieses Texts soll eine Fehleranalyse gemacht und textlinguistische Fragen erörtert werden.				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td>Kopien</td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td></td> </tr> </table>	テ キ ス ト	Kopien	参 考 文 献	
テ キ ス ト	Kopien				
参 考 文 献					
評 価 方 法	Jede Unterrichtsstunde wird die Abgabe eines Aufsatzes erwartet. Diese Texte bilden auch die Grundlage für eine Beurteilung der Leistungen.				
受 講 者 に 対 す	Regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit sind die Voraussetzungen für einen erfolgreichen Abschluß.				

科 目 名	独作文4(旧)	担当者名	H. Jarosch
-------	---------	------	------------

講 義 の 目 標	母国語の場合語り手か筆者が文章か作文を割り合いでたやすく考案する。外国語の場合、語り手か筆者が文章か作文を骨折って構成するといって良い。この構成のせいであろうか、文章を作る時に、特に初心者は同じような形態論的な構造とか、決まり文句とか或るいは、主文のみを使用しがちである。しかし作文とは主文のみの配列ではなく、主文と副文との連続した組織である。副文なしに作文は退屈な寄せ集めとなり、証言力と意味内容の表現力に欠けている。したがって、およそ11の副文パターンを文章作りに折り込み、作文に挑むことにしたいと思う。
講 義 概 要	主文と副文すななり、1. dass接続詞副文 2. 間接的疑問文 3. zu+不定詞句 4. 関係副文 5. 原因副文 6. 条件副文 7. 認容副文 8. 目的副文 9. 結果 10. 状況 11. 時の副文が総合する作法を研究したうえ、具体的な文章を作り上げ、作文にもちいることを習う。作文のテーマとしては、交易を描写すること、漫画を見ながらストーリーを作る。経験したことを記述する。聞いた通りを自分の言葉で書く。討議したことを書く。レポートを書く。履歴書、自伝、自己観察、人物記述、商用書簡、形式的一儀礼的手紙、求職申し込み、申請書、投書等を書くことを取り上げる。
使 用 教 材	テキスト 1. プリント配布 2. W. Dietrich Zielinski; <i>Grundformen des deutschen Nebensatzes</i> , Klett Verlag Stuttgart, 1982 参考文献
評 価 方 法	年間およそ14回もの作文を提出してもらい、これをその都度評価する。前期と後期の終了試験の評価は決定的なウエートをもつ。
受講者に対する要望など	

科 目 名	独作文 5 (旧)	担当者名	C. Jobst
-------	-----------	------	----------

講 義 の 目 標	いろいろなテーマについて自由に簡潔なドイツ語文章を書く能力を身につける。まず各自はそれぞれ一番面白い体験をドイツ語で書きおろしてみたうえで音読します。共通と個別の間違いに対する意識を高め、その認識に導くためです。者の描写等、小説の内容を自分のドイツ語で要約して表現することは、上述のパターンでさらに自分の語学能力の認識を深めます。				
講 義 概 要	<p>授業のすすめ方 人数によってかなり違ってきますが、毎週各自がA4版1~2枚の作文を書きあげることが理想です。</p> <p>授業の進度 単純な描写からスタートして、一年間で自分の発想をドイツ語で簡単に表現できることを目的とします。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td></td> </tr> </table>	テキスト		参考文献	
テキスト					
参考文献					
評 価 方 法	平常点及び年末レポート				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	何よりも熱意、そして宿題に時間をかけること。				

科 目 名	独作文 6 (旧)	担当者名	U. 川 村
-------	-----------	------	--------

講 義 の 目 標	<p>Erlernen und Verbesserung der schriftlichen Ausdrucksfähigkeit durch Bildbeschreibung, Berichte über Hobbys, Ausflüge, Reisen und Wochenendaktivitäten.</p> <p>Zusammenfassungen von Texten, Formulieren von eigenen Meinungen, bes. auch in Briefform (Privatbriefe u. Postkarten)</p> <p>Sowie Lebenslauf, Bewerbungsschreiben, Beschreibung von Personen, Sachen, Ereignissen.</p>		
講 義 概 要	<p>Als Hilfe zum gezielten Schreibtraining werden den Studenten schriftsprachliche Mittel, vielfältige Übungstypen sowie die erforderlichen Vorgaben angeboten.</p>		
使 用 教 材	テキスト	Textmaterial wird gestellt	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>Aufsätze in Hausarbeit-Bewertung der erstellten Texte im Unterricht.</p> <p>2 Semester abschluß tests</p>		
受 講 者 に 対 す	る要望など	Gute deutsche Grundkenntnisse. Hausaufgaben, Unbedingt regelmässige aktive Teilnahme	

科 目 名	独作文 7 (旧)	担当者名	H. J. Troll
-------	-----------	------	-------------

講 義 の 目 標	Möglichst fehlerfreies Erstellen einfacher Berichte, Beschreibungen, Mitteilungen aller Art, z. B. auch Briefe, Karten, Notizen auf Deutsch, unter Anleitung des Dozenten				
講 義 概 要	<ul style="list-style-type: none"> —Vorarbeiten dazu im ersten Semester mittels <i>Lehrbuch</i> : Satzbauübungen, übungen zum Verbgebrauch, Gebrauch der Zeiten, Präpositionen etc. —Vorwiegend praktischer Teil : eigene Erstellung von Texten aller Art mit Hilfe des Dozenten (im zweiten Semester) 				
使 用 教 材	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">テ キ ス ト</td><td>wird vorgestellt 表現と作文 (福田 / トロル) 白水社</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">参 考 文 献</td><td>ein gutes Wörterbuch</td></tr> </table>	テ キ ス ト	wird vorgestellt 表現と作文 (福田 / トロル) 白水社	参 考 文 献	ein gutes Wörterbuch
テ キ ス ト	wird vorgestellt 表現と作文 (福田 / トロル) 白水社				
参 考 文 献	ein gutes Wörterbuch				
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> —Test im Sommer- und Wintersemester —Unterrichtsmitarbeit 				
受 講 者 に 対 す	regelmäßige Teilnahme und Vorbereitung auf den Unterricht				

科 目 名	独会話 1 (旧)	担当者名	M. 鮎 貝
-------	-----------	------	--------

講 義 の 目 標	LERNZIELE: Verbesserung des Verstehens und Erweiterung der mündlichen Ausdrucksfähigkeit sowie des Vokabulars. Dabei soll der Zusammenhang von Sprache und Inhalt herausgestellt werden.				
講 義 概 要	Im Rahmen der in Japan angestrebten "Internationalisierung", deren Grundlage ein besseres gegenseitiges Verstehen ist, hat sich der Kurs die "Unterschiede und Gemeinsamkeiten der Deutschen und Japaner" zum Thema gesetzt. Wir nehmen dafür Texte zur Grundlage, die unter dem Titel "Die Japaner sind ganz anders" zusammengefaßt sind. Der Titel könnte ebenso gut "Die Deutschen sind ganz anders" lauten. Warum — das wollen wir gemeinsam erarbeiten.				
使 用 教 材	テキスト	<i>DIE JAPANER SIND GANZ ANDERS</i> von J. Berndt / T. Oshio, ASAHI VERLAG.			
	参 考 文 献				
評 価 方 法	Texte sollen zu Hause vorbereitet werden, d. h. besonders das Nachschlagen unbekannter Wörter, sodaß das Erarbeiten des Textes in der Klasse schnell vorangeht und Zeit zum Diskutieren bleibt. Um das Thema sinnvoll behandeln zu können, ist regelmäßige Teilnahme erforderlich.				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど					

科 目 名	独会話 2 (旧)	担当者名	K. O. Beißwenger
-------	-----------	------	------------------

講 義 の 目 標	Ziel des Kurses ist die Gesprächs- und Diskussionsfähigkeit der Teilnehmer zu schulen. Dafür soll geübt werden : 1. die eigene Meinung zu formulieren, 2. die Beiträge der anderen Kursteilnehmer zu verstehen, 3. die eigene Meinung in Bezug zu den Ansichten der anderen zu setzen.
講 義 概 要	Themen aus dem täglichen Leben sind die Grundlage für Gespräche und Diskussionen.
使 用 教 材	<p>テキスト “Was sagen Sie dazu? Alltagsthemen im Gespräch”, Hueber - Verlag : München (gekürzte japanische Ausgabe, erläutert von Yoshihisa Matsumoto. Asahi - Verlag : Tokyo)</p> <p>参考文献</p>
評 価 方 法	Kleinere benotete schriftliche Hausaufgaben, mündliche Tests am Ende der beiden Semester.
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Regelmäßige, aktive Teilnahme

科 目 名	独会話 3 (旧)	担当者名	R. Briel
-------	-----------	------	----------

講義の目標	Ziel des Unterrichts ist, die Sprechfähigkeit der Studenten auszubauen und zu vertiefen. Die Studenten lernen, sich in Alltagssituationen zurechtzufinden.
講義概要	Wiederholung des bisher Gelernten, Grammatikübungen, Leseübungen, Diktate, Hörverständnisübungen (Lesen, Erklärungen unbekannter Wörter in deutscher Sprache, Fragen zum Inhalt, Verfassen von Variationen), Übungen zum richtigen Einsatz von umgangssprachlichen Redewendungen.
使用教材	テキスト Sprachkurs Deutsch 1
	参考文献 a) Regelmäßige Teilnahme am "und" im Unterricht. b) Teilnahme an den 2 Semesterend-Tests.
評価方法	
受講者に対する要望など	

科 目 名	独会話 4 (旧)	担当者名	R. Briel
-------	-----------	------	----------

講 義 の 目 標	Ziel des Unterrichts ist, die Sprechfähigkeit der Studenten auszubauen und zu vertiefen. Die Studenten lernen, sich in Alltagssituationen zurechtzufinden.
講 義 概 要	Wiederholung des bisher Gelernten, Grammatikübungen, Leseübungen, Diktate, Hörverständnisübungen, Dialogübungen (Lesen, Erklärungen unbekannter Wörter in deutscher Sprache, Fragen zum Inhalt, Verfassen von Variationen), Übungen zum richtigen Einsatz von umgangssprachlichen Redewendungen.
使 用 教 材	<p>テキスト</p> <p>Sprachkurs Deutsch 1</p> <p>参考文献</p> <p>a) Regelmäßige Teilnahme am "und" im Unterricht. b) Teilnahme an den Semesterabschlußtests.</p>
評 価 方 法	
受講者に対する要望など	

科 目 名	独会話 5 (旧)	担当者名	B. Ebert
-------	-----------	------	----------

講 義 の 目 標	In diesem Kurs sollen verschiedene Redestrategien analysiert und eingeübt werden. Die Teilnehmer lernen, wie man Argumente logisch aufbaut und im Gespräch wirkungsvoll einsetzen kann.
講 義 概 要	Je nach sprachlichem Niveau der Teilnehmer werden verschiedene Themen aus Kultur, Politik und Kunst in Kurzreferaten (von den Teilnehmern) dargeboten. Der Vortrag soll Anlaß zu einem weiterführenden Gespräch geben.
使 用 教 材	テ キ ス ト Kopien
	参 考 文 献
評 価 方 法	Grundlage für die Beurteilung der Leistungen sind Referate.
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit sind die Voraussetzungen für einen erfolgreichen Abschluß.

科 目 名	独会話 6 (旧)	担当者名	H.H.Gäthke
-------	-----------	------	------------

講 義 の 目 標	Die Teilnehmer mit den neuesten Trends in Politik und Gesellschaft der Bundesrepublik Deutschland vertraut machen.
講 義 概 要	Da von Unterrichtsstunde zu Unterrichtsstunde aktuelle Themen, die den neuesten Presseberichten entnommen werden, behandelt werden sollen, läßt sich nicht in voraus bestimmen, wann welches Topic zur Sprache kommt. Vorgesehen ist jeweils eine eingehende Beschäftigung mit den Pressemeldungen aus unterschiedlichen Medien und eine anschließende Diskussion.
使 用 教 材	<p>テキスト</p> <p>Kopien unterschiedlicher Pressemedien</p> <p>参考文献</p> <p>möglichst einsprachige Wörterbücher wie z. B. der Duden oder Wahrig</p>
評 価 方 法	<p>a) regelmäßige Teilnahme am Unterricht</p> <p>b) Kurzreferate der Teilnehmer mit persönlichen Stellungnahmen zu aktuellen Themen</p>
受講者に する要望など	

科 目 名	独会話 7 (旧)	担当者名	H. Jarosch
-------	-----------	------	------------

講義の目標	会話とは、気楽な軽い楽しい者同士のおしゃべりをする事だという意味を考えますと、学生の場合は、三つの条件が浮かびあがって来る。まづ第一に集まって来る研究者は、interestedすなわち、喜こんで会話に参加するという事と、第二に intensiv 神経を集中して話題のテーマと取り組むことと、第三に、会話を維持しうるために必要な Imagination で、すなわち、想像力を十分に働かせる事です。更に必要なのは、十分な語彙、そしてテーマに通じることである。そうすれば何んらわだかまりなく会話に入っていくと言う目的を達することが出来るだろう。		
講義概要	会話に使用されているテーマの下準備をするために、事前にテーマ（およそ20題）の目録を配り、そこから研究者に適当なものを選んでもらう。会話を座長に司会していただき記録係りには記録をとっておくことにする。それをもとにして復習授業につかう。		
使用教材	テキスト	プリント配布	
	参考文献		
評価方法	会話への参加による。 1. 積極的か消極的 2. 関心をもっている無関心か 3. 発言が豊かであるか乏しいか。年中の発言が不十分であるいは、少ない場合は、後期に口頭試問をおこなう。		
受講者に対する要望など			

科 目 名	独会話 8 (旧)	担当者名	U. 川 村
-------	-----------	------	--------

講 義 の 目 標	Entwicklung der Hörverstehens- und Sprechfähigkeit, und zwar im Kommunikativen Rahmen bestimmter Sprechintentionen und Sprechsituationen der Alltagskommunikation. <i>Methode</i> : Hörverstehensübung durch Zuhören authentischer Spontandialoge, Nachsprechen, Nachspielen u. Abändern der Dialoge, Aufbau u. Gestaltung freier Dialoge als Übung zur aktiven Sprachproduktion		
講 義 概 要	<i>I 2 Sprechintentionen</i> : Vorstellung, Tagesabläufe, Einkaufen, Arbeitssuche, Bank und Sparkasse, Essen gehen, Geburtstag, Krankheit, Reisen, Auto. Fragen stellen, Auskünfte erteilen, über Pläne, Studium, Hobbys, Gewohnheiten sprechen. Themen auch nach Wunsch der Studenten.		
使 用 教 材	テキスト	<i>Alltag in Deutschland</i> -Zusatzmaterial	
	参考文献	INTERNATIONES Werner und Alice Beile Textbücher werden vom Lehrer direkt in der BRD, Bonn, bestellt	
評 価 方 法	Nach aktiver Unterrichtsbeteiligung, kleinen Zwischentests, Hausaufgaben, 2 Semesterabschlußtests.		
受 講 者 に 対 す	る要望など	Gute Grundkenntnisse-Interesse an wirklich aktiver Mitarbeit-Regelmäßige Teilnahme am Unterricht.	

科 目 名	独会話 9 (旧)	担当者名	N.Meisemann
-------	-----------	------	-------------

講 義 の 目 標	Unterrichtsziel ist, die Sprech- und Diskussionsfähigkeit der Studentinnen und Studenten mit der Fremdsprache Deutsch zu fördern und zu vertiefen.
講 義 概 要	Themenschwerpunkte, wie Reisen, Lieblingslektüre, der Vergleich von Schul- und Erziehungssystemen, sowie anderen kulturellen Unterschieden usw., bilden den Ausgangspunkt für die systematische Erweiterung der lexikalischen und grammatischen Mittel, die es erlauben, erfolgreich zu diskutieren und zu einem Thema, pro oder contra, Stellung zu beziehen.
使 用 教 材	テキスト Eigene Materialien, mit für Diskussionen besonders geeigneten Themen- schwerpunkten, werden den Studentinnen und Studenten beim Unterrichtsbeginn in Form von Kopien zur Verfügung gestellt.
	参考文献 Die regelmäßige Teilnahme am und im Unterricht, sowie die Hausaufgaben und die schriftliche Beantwortung von Verständnisfragen nach jedem Themenschwerpunkt, werden mit jeweils 25% bewertet.
評 価 方 法	Nur wer regelmäßig am und im Unterricht teilnimmt, sowie seine Hausaufgaben fristgerecht macht, wird den Kurs erfolgreich abschließen können. Anstelle der beiden Semesterendtests, sind nach jedem Themenschwerpunkt schriftlich Verständnisfragen zu beantworten.
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	

科 目 名	独会話 10 (旧)	担当者名	I. Szathmary
-------	------------	------	--------------

講 義 の 目 標	Dieses anspruchsvolle Kollegium wird diesen Studenten empfohlen, die die Elementargrammatik mit Sicherheit behandeln können und schon ein akzeptables Deutsch beherrschen. Die Weiterbildung dieser Studenten ist hier die Zielsetzung.				
講 義 概 要	Die Grundlagen der deutschen Satzbildung und Syntax. Volle Übersicht in puncto deutscher Satzkonstruktionen (Satzverbindung, Satzgefüge, Nebensätze).				
使 用 教 材	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">テ キ ス ト</td><td></td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">参 考 文 献</td><td>Ohne Buch ; ich schreibe alles an die Tafel.</td></tr> </table>	テ キ ス ト		参 考 文 献	Ohne Buch ; ich schreibe alles an die Tafel.
テ キ ス ト					
参 考 文 献	Ohne Buch ; ich schreibe alles an die Tafel.				
評 価 方 法					
受 講 者 に 対 す					

科 目 名	独会話 11(旧)	担当者名	H. J. Troll
-------	-----------	------	-------------

講 義 の 目 標	Sicherheit gewinnen im mündlichen Ausdruck				
講 義 概 要	<p>Deutschland und Europa im Wandel</p> <p>Schwerpunkte der Konversation nach Absprache zu Semesterbeginn, nach Wunsch der Teilnehmer</p>				
使 用 教 材	テキスト	Kein Buch			
	参考文献	ein ; <i>gutes</i> , Wörterbuch			
評 価 方 法	<p>Sommer- und Wintersemester-Test, evt. mündlich</p> <p><i>Aktive Unterrichtsmitarbeit</i></p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Regelmäßige Teilnahme				

科 目 名	時事ドイツ語 I -1 (旧)	担当者名	金井 満 (前期) 林部圭一 (後期)
-------	-----------------	------	------------------------

前 期

講義の目標	文字として書かれたドイツ語のみならず、映像や音声など多様な媒介を通してドイツの事情を理解し、ドイツに関する政治的、文化的な知識を深めることを目標とする。				
講義概要	なるべく新しい情報を素材にして授業を進めたい。文字情報としては雑誌やインターネットなどから得られる最新の身近な情報を、映像・音声はZDFのニュースなどを使い、今ドイツで何が話題となっているのかを扱う。文字情報に関しては、参加者に事前にコピー等を配付し、内容中心に読解し、その背景などに関する討議を行う。映像・音声についてはヴィデオを見て、その場である程度内容を理解するように授業を行う。				
使用教材	テキスト	必要に応じてコピー等で配付する。			
	参考文献				
評価方法					
受講者に対する要望など	レポートもしくは筆記試験と授業への参加度で評価を行う。				

後 期

講義の目標	新聞や雑誌に出てくる時事用語に慣れる。				
講義概要	最近の新聞や雑誌のコピーを読む。				
使用教材	テキスト				
	参考文献	コピーを配付する。			
評価方法					
受講者に対する要望など					

科 目 名	時事ドイツ語 I - 2 (旧)	担当者名	木 内 基 実
-------	------------------	------	---------

講 義 の 目 標	文芸作品にも、語学論文にもない、ジャーナリズムのドイツ語に触れる機会を与えるのが目標である。				
講 義 概 要	週刊誌から興味を惹かれる記事を選んでいく。その際特別なテーマによって記事を選択するような事もなく、ただダラダラと読んでいくに過ぎない。どんな記事にも、面白い言葉、表現が見出される事を確信している。				
使 用 教 材	テ キ ス ト	“Stern” (多分)			
	参 考 文 献	ナシ			
評 価 方 法	定期試験による。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	ナシ				

科 目 名	時事ドイツ語 I -3 (旧)	担当者名	黒 田 多美子
-------	-----------------	------	---------

講 義 の 目 標	ドイツの新聞記事を読みながら、ドイツの文化・歴史に対する理解を深めます。とくに1995年は、ドイツにとっても日本にとっても第二次世界大戦敗戦50年目の年となります。そこで、日独の歴史意識の比較も視野に入れて、戦争責任の問題に関する記事を中心に読んでみたいと考えています。				
講 義 概 要					
使 用 教 材	テキスト	ドイツの新聞記事から選択してプリント配布。			
	参考文献				
評 価 方 法	授業への参加度を積極的に評価する。				
受 講 者 に 対 す る 要 求 な ど					

科 目 名	時事ドイツ語 I - 4 (旧)	担当者名	中 島 悠 爾
-------	------------------	------	---------

講義の目標	政治・経済などを中心とするいわゆる「時事問題」ばかりでなく、日・独文化の相違点、日常生活のさまざまな場面に見られるものの考え方の違いなどにも焦点をあててみたい。		
講義概要	さまざまなテキストを通してドイツ文化の諸現象を検討するが、同時にそれに相応する日本文化をも考察の対象とする。具体的には、日本文化・日本の日常生活に関するテキスト(ドイツ語)も取り上げ、あるいは自分の考えをドイツ語で表現する練習も加える予定である。		
使用教材	テキスト	プリントを配布する。	
	参考文献		
評価方法	授業への参加度、前後期各1回のテストによる。		
受講者に対する要望など			

科 目 名	時事ドイツ語 I - 5 (旧)	担当者名	古 田 善 文
-------	------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>①ドイツの代表的な新聞・雑誌・テレビニュース（ZDF）を題材に、時事ドイツ語の翻訳技術の改善、読解力・聞き取り力のアップをめざす。</p> <p>②現代ドイツ（欧州）の政治・経済・社会理解に必要な基礎知識の修得につとめる。</p>				
講 義 概 要	<p>原則として、ひと月に一つのテーマというペースで年間の講義はすすめられる。ちなみに、昨年度の時事ドイツ語講義のテーマは、「EU議会選挙」、「外国人選挙権問題」、「旧東独地域におけるネオナチ」、「連邦議会選挙、1994年」、「ドイツの出生率低下と外国人統合問題」、「在ドイツ外国人子弟への国籍付与問題」、などであった。</p>				
使 用 教 材	テキスト	新聞・雑誌・関係資料のコピーを適宜配布する。			
	参考文献				
評 価 方 法	<p>前期はレポートなどの課題。後期は期末試験を実施。その他、出席と授業への貢献度を加味して年間評価を決定する。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業効果をたかめるため受講者数を制限することもある。				

科 目 名	商業ドイツ語 I (旧)	担当者名	R. Sandrock
-------	--------------	------	-------------

講義の目標	1) MOKUHYO-PURPOSE LERNZIELE SIND: 1) VERSTEHEN VON GESCHAEFTSBRIEFEN 2) FAEHIGKEIT, SELBSTAENDING LEICHTE BIS MITTELSCHWERE GESCHAEFTSBRIEFE ZU SCHREIBEN.
講義概要	2) GAIYO-OUTLINE IN JEDER STUNDE WIRD EIN GESCHAEFTSBRIEF BESPROCHEN UND EINGEUEBT. HAUSAUFGABE: SCHREIBEN EINES GESCHAEFTSBRIEFES NACH VORGEgebenEM MUSTER. DIE HAUSARBEITEN WERDEN IN DER KLASSE GEMEINSAM BESPROCHEN UND VERBESSERT.
使用教材	テキスト 3A) TEXT KOPIEN VON GESCHAEFTSBRIEFEN UND ANDEREN MATERIALIEN, DIE DER LEHRER MITBRINGT. 参考文献 3B) REFERENCE MATERIAL ABHAENGIG VOM UNTERRICHT.
評価方法	4) HYOKA HOHO -EVALUATION METHODS REGELMAESSIGE, AKTIVE TEILNAHME AM UNTERRICHT, ZWISCHENTESTS HAUSAUFGABEN, SEMESTERABSCHLUSSTESTS
受講者に対する要望など	5) JUGYO O TORU GAKUSEI INTENSIVE MITARBEIT WIRD ERWARTET.

科 目 名	時事ドイツ語Ⅱ-1(旧)	担当者名	K. O. Beißwenger
-------	--------------	------	------------------

講義の目標	Mit der Textlektüre soll die Lesefähigkeit erweitert werden. Anhand unterschiedlicher Themen sollen verschiedene Vokabularfelder erarbeitet werden.				
講義概要	Die Palette der Zeitungen und Zeitschriften in Deutschland ist groß und bunt. Sie reicht von der Bild - Zeitung bis zu "Die Zeit", vom Boulevardblatt bis zur Fachzeitschrift. Im Kurs werden anhand unterschiedlicher Themen verschiedene Zeitungs - und Zeitschriftentypen vorgestellt. Dabei sollen mehrere Berichterstattungen eines Themas verglichen werden.				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>Kopien</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td></td> </tr> </table>	テキスト	Kopien	参考文献	
テキスト	Kopien				
参考文献					
評価方法	Mündliches Referat mit schriftlicher Zusammenfassung, zwei benotete Hausaufgaben				
受講者に対する要望など	Regelmäßige, aktive Teilnahme				

科 目 名	時事ドイツ語Ⅱ-2(旧)	担当者名	B. Ebert
-------	--------------	------	----------

講義の目標	Neben der Lektüre von Zeitungstexten soll auch anhand von Radio- und Fernsehnachrichten das Hörverstehen geübt werden.		
講義概要	Aktuelle Nachrichten und Ereignisse werden vorwiegend in Gruppen erarbeitet. Fragen zur Erschließung des Textes sollen dabei den Zugang zu den meist sehr komplexen Zeitungstexten erleichtern.		
使用教材	テキスト Kopien Video	参考文献	
評価方法	Am Semesterende soll ein längerer Aufsatz über ein aktuelles Thema abgegeben werden.		
受講者に対する要望など	Regelmäßige Teilnahme und aktive Beteiligung am Unterricht sind Voraussetzungen für einen erfolgreichen Abschluß.		

科 目 名	時事ドイツ語II-3(旧)	担当者名	H. Jarosch
-------	---------------	------	------------

講義の目標	日常ドイツ語会話においても、ドイツ文語においても同じく多くの近代的な言語構成がこの頃よく見られる。これらのいわゆる新作品の意味というのは、なかなかわからないものである。そしてこれは又、あらゆる分野たとえば、家政の分野についてもいえる（芸術やスポーツ、学問や先端技術の分野についてもいえるのです。したがって近代ドイツ語を理解しようとし、しかもドイツ語で発言しようと思う人は、どうしても新しい表現や、きまり文句に精通しなくてはならない。研究の目的は、新聞、雑誌、テレビでよく使われている新用語などを紹介し、グループでもって討議する。				
講義概要	近代ドイツ語、新用語などを、おおいに使っているテーマを経済、政治自然環境研究分野から選び、会話の対象として、現代の高度な水準に達した専門用語を自分の言彙に取り入れることを目指す。いまだ全く知られていない表現か言い回しなどを、調べて見つけ出し、その意味をできるだけ事前に考察しうるために、ワーキングペーパーを前もって配ることにしている。授業中に分析して、その意味について、みんなで話し合いそして、自からの実例を作成して、新用語、新述語を研究する。				
使用教材	テキスト	プリント配布			
	参考文献	Gerhard Hellwig ; <i>Kennen Sie die neuesten Wörter?</i> , Humboldt-Taschenbuchverlag München, 1983			
評価方法	授業への参加度と前後期各1回のレポートによって決定する。				
受講者に対する要望など					

科 目 名	時事ドイツ語 II - 4 (旧)	担当者名	C. Jobst
-------	-------------------	------	----------

講義の目標	<p>ドイツの国情を正しく把握する能力を増す。</p> <p>Wir wollen anhand der neuesten Nachrichten des ZDF lernen, Deutschland richtig zu verstehen.</p>								
講義概要	<p>NHK衛星放送で毎朝放映されているドイツ第二放送の報道番組「ZDF・heute」の中から選択されているニュースを見て、最新情報についてディスカッションします。</p> <p>Wir sehen uns die neuesten Nachrichten des ZDF an und diskutieren über den Inhalt auf deutsch.</p> <p>Wir lernen dabei richtig hören und über neue Inhalte zu sprechen.</p>								
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td colspan="2">収録ビデオ</td> </tr> </table>			テキスト			参考文献	収録ビデオ	
テキスト									
参考文献	収録ビデオ								
評価方法	平常点及び年末試験								
受講者に対する要望など	何よりも熱意、そして無断で欠席しないこと。								

科 目 名	時事ドイツ語Ⅱ—5（旧）	担当者名	N.Meisemann
-------	--------------	------	-------------

講 義 の 目 標	Unterrichtsziel ist, die Sprech- und Diskussionsfähigkeit der Studentinnen und Studenten mit der Fremdsprache Deutsch zu fördern und zu vertiefen.				
講 義 概 要	Themenschwerpunkte, wie Reisen, Lieblingslektüre, der Vergleich von Schul- und Erziehungssystemen, sowie anderen kulturellen Unterschieden usw., bilden den Ausgangspunkt für die systematische Erweiterung der lexikalischen und grammatischen Mittel, die es erlauben, erfolgreich zu diskutieren und zu einem Thema, pro oder contra, Stellung zu beziehen.				
使 用 教 材	テ キ ス ト	Eigene Materialien, mit für Diskussionen besonders geeigneten Themen- schwerpunkten, werden den Studentinnen und Studenten beim Unterrichtsbeginn in Form von Kopien zur Verfügung gestellt.			
	参 考 文 献	Die regelmäßige Teilnahme am und im Unterricht, sowie die Hausaufgaben und die schriftliche Beantwortung von Verständnisfragen nach jedem Themen- schwerpunkt, werden mit jeweils 25% bewertet.			
評 価 方 法	Nur wer regelmäßig am und im Unterricht teilnimmt, sowie seine Hausaufgaben fristgerecht macht, wird den Kurs erfolgreich abschließen können. Anstelle der beiden Semesterendtests, sind nach jedem Themenschwerpunkt schriftlich Verstä ndnisfragen zu beantworten.				
受 講 者 に 對 す る 要 望 な ど					

科 目 名	時事ドイツ語Ⅱ－6（旧）	担当者名	I. Szathmary
-------	--------------	------	--------------

講義の目標	Dieses Kollegium erzielt die systematische Weiterbildung dieser Studenten, die sich in der Behandlung der wichtigsten Kapiteln der deutschen Elementargrammatik unsicher fühlen. Nach diesem Studium wird der Student fähig Sätze der Umgangssprache mit grammatischer Präzision aufbauen zu können.
講義概要	Grammatische Übersicht: Wortlehre, Satzlehre. Syntaktische Möglichkeiten der Satzkonstruktion (einfacher Satz, zusammengesetzter Satz). Die wichtigsten und am häufigsten gebrauchten Kapiteln der Wortlehre (Deklination des Nomens, Konjugation des Verbs, etc.)
使用教材	テキスト
	参考文献
評価方法	
受講者に対する要望など	

科 目 名	中高ドイツ語 (旧)	担当者名	I. Albrecht
-------	------------	------	-------------

講 義 の 目 標	Einführung ins MHD anhand kulturell aufschlußreicher Texte.				
講 義 概 要					
使 用 教 材	テキスト	K. Gärtner u. H.-H. Steinhoff, Minimalgrammatik Z. Arbeit m. mhd. Texten. Cöpp. '89.			
参 考 文 献					
評 価 方 法					
受 講 者 に 対 す	る要望など				

前期

年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	Was bezeichnet man als MHD? (Abgrenzung zum NHD) Welche Sprache sollte ein Fremder lernen, wenn er in "deutschsprachiges" Gebiet kam?
2	Bedingungen der Textproduktion. Wer schreibt für wen? Wer kann überhaupt schreiben / lesen? Wie wurden Texte vermittelt / überliefert?
3	Textsorten (Lyrik, Spruchdichtung, Epopäia, Drama, Sachtexte)
4	Der Status des Autors / Künstlers
5	Ritterlich-höfische Gesellschaft (Wolfram von Eschenbach, Parzival)
6	Die Erziehung zum Ritter
7	Darstellung männlicher und weiblicher Personen, ihre Attribute
8	Ethische Werte (triuwe, staete...) und deren Gegenteil
9	Naturauffassung
10	Sprache (französischer Lehnwortschatz, formelhafte Wendungen, rhetorische Figuren)
11	Übersetzungsvergleich
12	Zusammenfassung und Wiederholung
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	"aventiure" (Hartmann von Aue, Iwein)
2	"aventiure"
3	Durchbrechen der Standesgrenzen (Wernher der Gartenaere, Helmbrecht)
4	Kleidung
5	Sprache
6	Wiederherstellung der Ordnung
7	Literarisches Bauernbild (Hans Folz (?), Der Bauernhandel)
8	Heldenepik: Nibelungenlied
9	Einleitung (Adjektive zu den Themen Freude und Leid)
10	Streit der Königinnen (Statusdenken)
11	Kampf
12	Wiederholung und Zusammenfassung
備考	

科 目 名	ドイツ語学講読 I (旧)	担当者名	下 川 浩
-------	---------------	------	-------

講 義 の 目 標	ドイツ語で書かれた言語学またはドイツ語学に関する文献を読みかつ解説し、ドイツ言語学界のある学説ないし諸学説の理解を促す。				
講 義 概 要	<p>下記テキストの “Der Satz” の部分をコピー、配布し、分担して発表してもらい、解説を加える。</p> <p>なお、本書には翻訳があるが、参考にしても、持参し全面的に頼ることは控えてもらいたい。</p>				
使 用 教 材	テ キ ス ト	Helbig, G. / J. Buscha ; <i>Leitfaden der deutschen Grammatik.</i> (Langenscheidt)			
	参 考 文 献	下川浩著『現代日本語構文法 大久保文法の継承と発展』(三省堂)			
評 価 方 法	実績に基づく自己評価をしてもらう。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	講義概要後半の要望のほか、直訳を脱したいと希望する学生の参加を望む。				

科 目 名	ドイツ文学講読 I (旧)		担当者名	糸 井 透
講 義 の 目 標	やさしいテキストをしっかり読む。Michael Endeの思想的背景にも目を向ける。			
講 義 概 要	受講者の基礎的語学力を確かめつつ、テキストを読み進める。			
使 用 教 材	テ キ ス ト	見える音楽・「モモ」より：郁文堂版（前期） 後期用テキスト未定		
評 価 方 法	参 考 文 献	前後期のテスト及び平常成績。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	欠席しないこと。			

科 目 名	ドイツ語学講読Ⅱ（旧）	担当者名	柿 沼 義 孝
-------	-------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>ドイツ語を言語学の観点から研究しようとするとき、そこにはどのような対象領域があり、どのような方法論を用いることでそれを追っていくことができるのか。これらを知ることは言語研究の第一歩である。</p> <p>この“ゲルマニストのための”言語学入門書を通して様々な観点からのドイツ語研究の可能性を探るとともに、基礎文献の読み方なども学んでいこうと思う。</p>								
講 義 概 要	<p>本入門書は11の章から成るが、その中から以下のものを扱う予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> I Sprache und Sprechen II Das Sprachliche Zeichen III Die Bestandteile des Wortes IV Die Beschreibung des Wortes V Pragmatische Aspekte des Sprechens 								
使 用 教 材	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">テ キ ス ト</td> <td colspan="2" style="padding: 2px;">Bergmann / Pauly ; <i>Einführung in die Sprachwissenschaft für Germanisten</i></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">参 考 文 献</td> <td colspan="2" style="padding: 2px;">そのつど指示する。</td> </tr> </table>			テ キ ス ト	Bergmann / Pauly ; <i>Einführung in die Sprachwissenschaft für Germanisten</i>		参 考 文 献	そのつど指示する。	
テ キ ス ト	Bergmann / Pauly ; <i>Einführung in die Sprachwissenschaft für Germanisten</i>								
参 考 文 献	そのつど指示する。								
評 価 方 法	平常授業と2回の定期テスト（参加人数によって変更あり）								
受 講 者 に 對 す る 要 望 な ど	言語に対して関心を持つ諸君の参加を望むが、専門的知識を持っている必要は特にない。								

科 目 名	ドイツ文学講読Ⅱ（旧）	担当者名	川野 諫（前期） 山中康子（後期）
-------	-------------	------	----------------------

前 期

講義の目標	S. Zweig のノンフィクションの作品を読む予定です。何分前期のみですので、適当な短編を選び読み終えたいと思います。ドイツ語を学ぶとともに、この作家の宿命觀といったものを感じとれればと思っています。		
講義概要	毎時学生諸君にあてて、訳読してもらいます。その際内容を正しく把握しているかどうか検討するとともに、使用する日本語も適切であるか考えてみたいと思います。		
使用教材	テキスト	S. Zweig : Die Weltminute von Waterloo	
	参考文献		
評価方法	毎時出席をとり訳読などによる日常点とともに、期末のペーパーテストにより評価する。		
受講者に対する要望など			

後 期

講義の目標	前期の授業の引き継ぎを受けて、文学作品の理解を深める。前期の蓄積を発揮できるようにして行きたい。				
講義概要	テキストは未定であるが、シュテファン・ツヴァイクかフゴー・フォン・ホーフマンスター ルまたはその他のオーストリア作家の作品を読む。				
使用教材	テキスト	未定			
	参考文献	ドイツ文学史の 20 世紀の部分を特に読んでおくことが望ましい。			
評価方法	前期の成績を参考にして後期の出席と定期試験の結果できめる。				
受講者に対する要望など	連続して欠席しないこと。				

科 目 名	英語Ⅲ—1（旧）	担当者名	阿 部 一
-------	----------	------	-------

講 義 の 目 標	この講座は日本語の中に於けるカタカナ語や和製英語が我々の身の回りにどういった形で使われ、またどんな問題が生じているのかを英文を味読しながら考えていくものです。単にテキストで取り上げている例だけでなく、実際の例を検討しどうすればキチンとした意味の通じる英語になるかを研究してみます。その意味では、ことばの比較対照や広告・宣伝の英語などに興味をもっている人には大変役立つでしょう。また、英語でのコミュニケーションと異文化に対する理解が深まっていくでしょう。				
講 義 概 要	テキストや資料に基づいて、まず①Japanized Englishやカタカナ英語を取り上げ、②どういった問題や誤解が生じるのかを検討し③、英語としてどのように修正される必要があるのか④、そして実際の英語圏では同じ状況でどのような表現を使っているのか、などについてクラスで討議、発表してみます。なお、発表に際してはフォーマットに合わせたハンドアウトを作成し、それに基づいたプレゼンテーションが要求されます。詳しい手順などは最初の授業時に配布されるシラバスを参照して下さい。				
使 用 教 材	テ キ ス ト	The Tokyo Weekender, The Japan Times, J. Thomas, M. Kenrickなどからの資料。			
	参 考 文 献	授業開始時に配布されるシラバスを参照。			
評 価 方 法	授業内の発表（プレゼンテーション）及び前・後期試験によります。ただし、レポート課題を別途出す場合もあります。				
受 講 者 に 對 す る 要 望 な ど	上記内容に興味があり、好奇心旺盛な人を歓迎します。				

科 目 名	英語Ⅲ－2（旧）	担当者名	岩 田 道 子
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	公用語の中でも英語の占める比重は大きく、その国際語としての地位は今後共ゆるがないだろう。何故英語がこのような地位を占めるに至ったのか。大英帝国からアメリカ合衆国への政治、経済上の優位性を保持したという事実もさることながら、英語そのものの特質、あるいはそれを使う人々の意識にも大いに関係があるのではないだろうか。英語の歴史を時代を追ってたどりながら、ヨーロッパの辺境国にすぎなかった英國が国威を発揚させ、英語がGolden Ageを迎えたとされるエリザベス朝を中心に、言語の成熟と社会の成熟の様子を跡づけてみたい。				
講 義 概 要	テキストとしてBBC製作の“ <i>The Story of English</i> ”を使う。これは、英語史というよりも、表題にあるように英語について充分な知識を提供しつつも、物語として面白く読めるように工夫されている。第一章では英語の現況、第二章では母語としての形成過程が、第三章ではシェイクスピアの時代（謂ゆるエリザベス朝）がとり上げられている。エリザベス朝を扱ったものについては別にプリントを渡す。				
使 用 教 材	テ キ ス ト	『BBC：英語ものがたり』 <i>The Story of English</i> 朝日出版社			
	参 考 文 獻	適宜紹介する。			
評 価 方 法	試験及びレポート発表。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習と発表が課されるだろう。				

科 目 名	英語Ⅲ-3(旧)	担当者名	日 下 正 一
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	総合英語講座。(講読・作文・会話・ヒアリング)				
講 義 概 要	ビデオ・カセットテープ・講読用テキスト等あらゆる教材を使用し、読解・作文・会話・ヒアリング力を向上させるための訓練をおこなう。				
使 用 教 材	テ キ ス ト	News World 95 マクミランランゲージハウス			
	参 考 文 献				
評 価 方 法	(1)前期・後期テスト (2)平常点・出席点				
受 講 者 に 對 す る 要 望 な ど	(1)予習不可欠 (2)積極的受講姿勢必要				

科 目 名	英語Ⅲ—4（旧）	担当者名	白鳥正孝
-------	----------	------	------

講義の目標	<p>著者 P. Milward 氏はオックスフォード大学出身のシェークスピア学者で、現在上智大学教授。氏の書きおろしによる紀行文「英詩のふるさと」を読む。目標とするところは、第一に現代英語の精読にあるが、併せて、英國の 6 人の詩人について学ぶ。詩そのものも地の文に若干引用されるので、プリントでその引用詩を配って解説もする。</p> <p>英文学の真髄である英詩に親しむことは、英國人の琴線に触れることでもある。本講は、単に英詩について知るだけでなく、英語による言語生活をきっと豊かにするものと信じる。</p>				
講義概要	<p>日本の英語学徒のための研修ツアーを引率した著者が、書いた紀行文である。先ずいわゆる観光ルートを避け、英國の真実の姿を知らせるようなルートを巡ることが述べられている。ついで1) チョーサー (G. Chaucer 1340-1400) 2) シェークスピア (W. Shakespeare 1564-1616) 3) ミルトン (J. Milton 1608-1674) 4) ワーズワース (W. Wordsworth 1770-1850) 5) ホプキンズ (G. M. Hopkins 1844-1889) 6) エリオット (T. S. Eliot 1888-1965) の順でそれぞれ詩人のゆかりの地を巡りつつ、詩人達の詩作の経緯や内容が、土地との関連で手際よく解説されていく。そして類い珍なあのロンドンのウェストミンスター寺院の「詩人コーナー」に祭られている上記詩人達の記念碑の解説をもって結んでいる。</p>				
使用教材	テキスト	<p>『英詩のふるさと』 <i>English Poets and Places</i> 金星堂 ¥1,200 その他プリント隨時</p>			
参考文献		<p>教室にてそのつど指示する。</p>			
評価方法	<p>前後期 2 回のテストによる。更に夏の課題として、マザーグースなどの易しい英詩を読んでもらう。併せて評価の参考資料とする。詳細は教室にて指示する。</p>				
受者に対する要望など	<p>授業は一回 5 ~ 6 頁を 2 人の共同責任で読み進めてもらう。当ってない人も、必ず予習をし、分らないところをどしどし質問してほしい。</p>				

科 目 名	英語N-1(旧)	担当者名	篠 田 愛 理
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	学習者が時事英語に慣れ、英字新聞記事が理解できるようになる基本的な読み方を指導。下記の教科書以外に、その時々の最新事件を <i>Time</i> , <i>Newsweek</i> 誌、日本の英字新聞等から適宜に活用。Dictation、語彙学習のチェックの為の小テストも施行、時事英語理解の向上を目的とする。				
講 義 概 要	各トピック（国際、国内問題、政治、外交、経済、産業、社会、文化、科学、教育、宗教、スポーツ、自然現象、女性問題、日本－アジア関係、戦後50周年等も含む）の背景、関連表現、関係語彙学習にも力を入れる。				
使 用 教 材	テ キ ス ト	中村憲明編『英文ニュース入門 (<i>Newspaper English</i>) 1995/1996』 成美堂、1995年			
	参 考 文 献	教室で指示。プリントの配布も予定。			
評 価 方 法	前期、後期の二つの期末試験、夏期休暇中のレポート、平生の授業での貢献度、及び出席状況に依って決定。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業は予め充分に予習してあることを前提にして講義を進行。遅刻せぬこと。				

科 目 名	英語 N-2 (旧)	担当者名	菅 原 清 次
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	基本的な英語の読解力の養成を目標とするが言語は自分の立場や生活と密接に関係のある場合に身につくものであるから教材はわれわれが根本的に关心を持たざるをえないものを選ぶべきだと思う。そのような意味では E. H. CARR の THE NEW SOCIETY (新しい社会) は現在われわれが置かれている歴史的現実を否応なしにわれわれの眼前につきつけて無視することを許さないから最適の教材だと信じる。英語の力と二十一世紀人としての常識が身につくことを念願している。				
講 義 概 要	この教材はフランス革命以降の社会構造・政治形態・思潮の変遷を簡潔・的確に記述したもので過去を知り現在を真剣に生きてよき未来を願う人々の必読の書である。このすぐれた作品を十分理解できるよえに英語の語法の説明や内容の解説を徹底する。				
使 用 教 材	テキスト	THE NEW SOCIETY BY E. H. CARR (新しい社会) 英宝社			
	参考文献	『新しい社会』岩波新書			
評 価 方 法	前後期の試験の成績と出席状況で評価する。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど					

科 目 名	英会話 I — 2 (旧)	担当者名	C. B. 池口
-------	---------------	------	----------

講 義 の 目 標	This course is designed to increase the level of students' vocabulary and familiarize them with a variety of English idioms, as the basic skills necessary to be able to express one's self on a variety of relevant issues for discussins.				
講 義 概 要	<p>Materials for this class will be drawn from a variety of daily life-related topics to comparative and intercultural issues. After reading a story on the basic issue for the day, the class will move on to pair work as well as group discussins.</p> <p>Come, join us and be a dynamic speaker of English.</p>				
使 用 教 材	テ キ ス ト	長谷川、秋山、Jones 編 ; <i>Japan Watching</i> (世界が見つめる日本), Seibido.			
	参 考 文 献	Brian Powle ; <i>That's My Opinion. Let's Agree to Disagree</i> , Kinseido. 1992.			
評 価 方 法	Grades will be based on studens' daily class preparation, active participation in class discussion, and periodic oral exams to be conducted during the year.				
受 講 者 に 対 す	る要望など				

科 目 名	英会話 I — 3 (旧)	担当者名	D. M. Meyers
-------	---------------	------	--------------

講 義 の 目 標	THE PRIMARY PURPOSE OF THIS COURSE WILL BE TO DEVELOP STUDENTS' SPOKEN ENGLISH THROUGH EXERCISES WHICH WILL APPROXIMATE REAL-LIFE SITUATIONS. SOME ATTENTION TO READING AND LISTENING WILL ALSO BE INCLUDED.				
講 義 概 要	ATTENDANCE AND PARTICIPATION ARE MANDATORY. THE EMPHASIS WILL BE ON ACTUALLY SPEAKING.				
使 用 教 材	テキスト	BRIAN ABBS AND INGRID FREEBAIRN; <i>BUILDING STRATEGIES</i> ; LONGMAN			
	参考文献	WE WILL USE THE EXERCISES IN THIS TEXT ON A DAILY BASIS, WITH PARTICULAR EMPHASIS ON PAIR PRACTICE, USE OF SHORT DIALOGS, AND QUESTION-AND-ANSWER DRILLS.			
評 価 方 法	I SHALL COMBINE AN EVALUATION OF STUDENTS' DAILY PERFORMANCE WITH ONE OR MORE FORMAL EXAMS, PLUS A SHORT SPEECH BY EACH STUDENT.				
受講者に る要望など す	STUDENTS SHOULD EXPECT TO SPEAK IN CLASS.				

科 目 名	英会話 I—4 (旧)	担当者名	R. M. Payne
-------	-------------	------	-------------

講義の目標	<p>students will learn the language needed for everyday life in the U.S. They will become more comfortable and fluent in spoken English while discussing and learning about American customs and lifestyles.</p>				
講義概要	<p>Unit 1: Faces of America—a look at both urban and rural America Unit 2: Around Town—daily activities such as banking, mailing letters, and shopping for groceries Unit 3: On the Go—travel and transportation in the U.S. Unit 4: Just for Fun—ways Americans spend their leisure time</p>				
使用教材	テキスト	<i>Everyday Situations for Communicating in English</i>			
	参考文献				
評価方法	<p>Grades will be based on attendance, participation in class activities, home work, and test scores.</p>				
受講者に対する要望など					

科 目 名	英会話 I — 5 (旧)	担当者名	J. M. Thurlow
-------	---------------	------	---------------

講 義 の 目 標	<p>To provide students with an opportunity to develop conversation skills.</p> <p>To discover how non verbal communication can differ within and between cultures.</p>				
講 義 概 要	<p>We will use work in pairs and small groups to encourage the students to make the best use of the English they have already learned.</p>				
使 用 教 材	テキスト	David PEATY; <i>All Talk 2</i> , Macmillan Language House.			
	参 考 文 献				
評 価 方 法	<p>Grades will be awarded according to attendance, punctuality, effort in class and attainment. There will be an oral examination as well as continuous assessment.</p>				
受 講 者 に 対 す					

科 目 名	英会話 I — 6 (旧)	担当者名	L. Villeneuve
-------	---------------	------	---------------

講義の目標	<p>In order to sign up for an English course, no one is expected to be almost fluent in the Language or to possess great knowledge of its grammar.</p> <p>The course is concerned with reminding you that you CAN speak English to some extend. It will make you realize that you have actually learned a lot of English and that you can give meaningful replies. You will realize that English is not impossible for you.</p> <p>It is easy. I will take you in my class just as you are. The only requirements are a good will and the desire to make progress.</p>		
講義概要	<p>The Method</p> <p>Our ninety minute lecture will be called WORKSHOP. During the first 45 minutes, you will study the story and memorize eight key sentences. Then, I will take you through some drills.</p> <p>The second 45 minutes should be spent in conversation in pairs or groups.</p> <p>Once every semester, a video will be shown. After its viewing, you will be asked to give a personal oral impression. Lots of fun ahead!!</p> <p>Join in ! Relax ! Improve !</p>		
使用教材	テキスト	material used in class will be made known at the second meeting.	
	参考文献		
評価方法		<p>As it is an academic course, there are credits to be earned. Therefore, regular attendance is a MUST for the third year students. The fourth year students have to attend ten workshops in order to be qualified to receive their credits.</p> <p>Everyone will be evaluated according to one's attendance, active participation and the final comprehension test.</p>	
受講者に対する要望など		<p>Welcome and have a great school year.</p>	

科 目 名	英会話Ⅱ(旧)	担当者名	D. R. Kogge
-------	---------	------	-------------

講 義 の 目 標	In this course, students will develop competence and confidence in speaking and understanding English. This will be accomplished through small-group, student-centered discussions based on assigned readings and topics.				
講 義 概 要					
使 用 教 材	テキスト				
	参考文献	Printed materials			
評 価 方 法	Students will be evaluated on the bases of class participation, attendance, and written/oral assignments.				
受講者 に対する る要望など					